J

デジタルカメラ

EX-H50

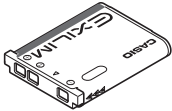
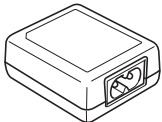
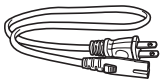
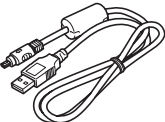
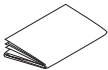
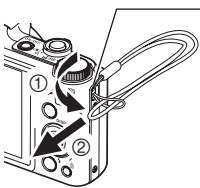
取扱説明書

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- 本機をご使用になる前に、必ず別冊「クイックスタートガイド」の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も、大切に保管してください。
- 本製品に関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト（http://casio.jp/dc/）またはカシオホームページ（http://casio.jp/）でご覧になることができます。

ユーザー登録のおすすめ

ユーザー登録していただくと、サポート情報の配信などをさせていただきます。下記のWebサイトから登録手続きを行ってください。

http://casio.jp/reg/dc/

付属品を確認する

箱を開けたら、以下の付属品がそろっているか確認してください。そろっていないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

あらかじめご承知ください

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 万一、Photo Transport、YouTube Uploader for CASIO使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えません。
- 取扱説明書に記載している画面やイラストは、実際の製品と異なる場合があります。

液晶パネルについて

液晶モニターに使用されている液晶パネルは、高精度な技術で作られており、有効画素は99.99%以上です。点灯しない画素や常時点灯する画素が存在することがありますが、液晶パネルの特性で、故障ではありません。

撮影前は試し撮りを

必ず事前に試し撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

目次

よりよい撮影のための設定 47

静止画や動画を再生する 59

再生時のその他の機能(再生機能) 62

プリント(印刷)する 68

パソコンを利用する　70

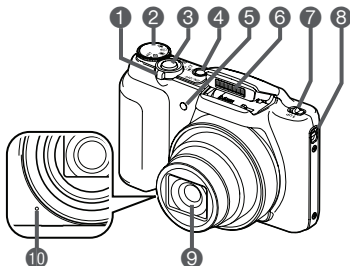
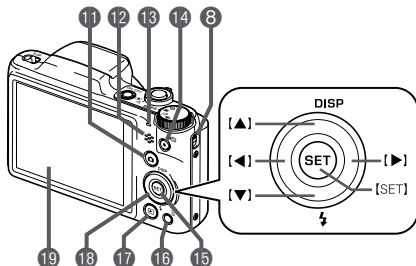
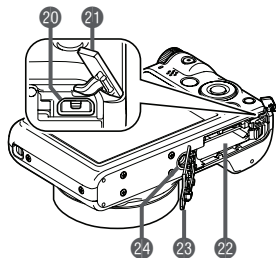
その他の設定について　81

付録 87

各部の名称

各部の説明が記載されている主なページを(　)内に示します。

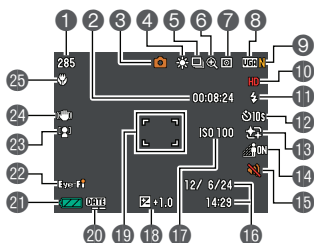
前面

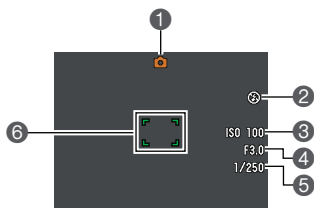
後面

❶ズームレバー (23、37、60、60ページ)
❷撮影モードダイヤル (28ページ)
❸シャッター(22ページ)
❹【ON/OFF】(電源) (20ページ)
❺前面ランプ(35ページ)
❻フラッシュ(33ページ)
❼フラッシュスイッチ (33ページ)
❽ストラップ取り付け部 (2ページ)
❾レンズ
❿マイク(43、66ページ)
⓫【📷】(撮影)ボタン (20、22ページ)
⓬スピーカー
⓭後面ランプ (14、15、33ページ)
⓮【●】(ムービー)ボタン (42ページ)
⓯【SET】ボタン(29ページ)
⓰【🗑】(消去)ボタン (25ページ)
⓱【▶】(再生)ボタン (20、25ページ)
⓲コントロールボタン (【▲】【▼】【◀】【▶】) (10、25、29、33、47ページ)
⓳液晶モニター (8、10ページ)

底面

⓴【USB/AV】接続端子(13、14、60ページ)
㉑端子カバー
㉒電池／メモリーカード挿入部(12、17ページ)
㉓電池カバー
㉔三脚穴
三脚に取り付けるときに使用します。

液晶モニターの表示内容と切り替えかた

液晶モニターには、さまざまな情報がアイコンや数字などで表示されます。

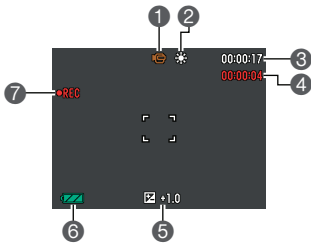
• 下の画面は、情報が表示される位置を示すためのものです。液晶モニターが実際にこの画面のようになることはありません。

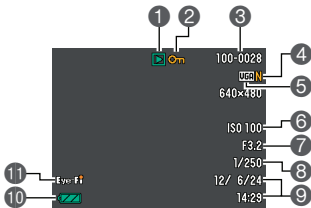
■ 静止画撮影時

❶静止画撮影可能枚数(98ページ)
❷動画の残り撮影時間(42ページ)
❸撮影の種類(22ページ)
❹ホワイトバランス(57ページ)
❺連写(53ページ)
❻画像劣化表示(38ページ)
❼測光方式(100ページ)
❽静止画の画像サイズ(30ページ)
❾静止画の画質(56ページ)
❿動画の画質(32ページ)
⓫フラッシュ(33ページ)
⓬セルフタイマー(35ページ)
⓭メイクアップ(36ページ)
⓮ライティング(36ページ)
⓯マナー(37ページ)
⓰日付/時刻(83ページ)
⓱ISO感度(58ページ)
⓲露出補正(56ページ)
⓳フォーカスフレーム(23、51ページ)
⓴タイムスタンプ(83ページ)
㉑電池残量表示(15ページ)
㉒Eye-Fi(78ページ)
㉓顔検出(52ページ)
㉔手ブレ補正(53ページ)
㉕フォーカス方式(48ページ)

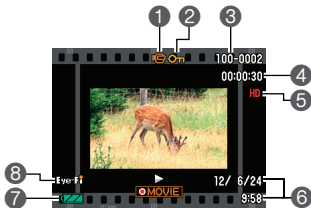
■ シャッター半押し時

❶撮影の種類(22ページ)
❷フラッシュ(33ページ)
❸ISO感度(58ページ)
❹絞り値
❺シャッター速度
❻フォーカスフレーム(23、51ページ)

参考

• 撮影時の設定によっては、絞り値、シャッター速度、ISO感度が表示されない場合があります。AE(自動露出)が適正でないときはオレンジ色に表示されます。

■ 動画撮影時

1 撮影の種類（42ページ）
2 ホワイトバランス（57ページ）
3 動画の残り撮影時間（42ページ）
4 動画の撮影時間（42ページ）
5 露出補正（56ページ）
6 電池残量表示（15ページ）
7 動画撮影中（42ページ）

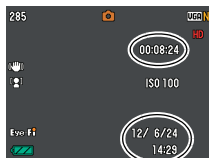
■ 静止画再生時

1 ファイル形態
2 プロテクト表示（65ページ）
3 フォルダ名／ファイル名（79ページ）
4 静止画の画質（56ページ）
5 静止画の画像サイズ（30ページ）
6 ISO感度（58ページ）
7 絞り値
8 シャッター速度
9 日付／時刻（83ページ）
10 電池残量表示（15ページ）
11 Eye-Fi（78ページ）

■ 動画再生時

1 ファイル形態
2 プロテクト表示（65ページ）
3 フォルダ名／ファイル名（79ページ）
4 動画の撮影時間（42ページ）
5 動画の画質（32ページ）
6 日付／時刻（83ページ）
7 電池残量表示（15ページ）
8 Eye-Fi（78ページ）

■ 液晶モニターの表示内容を切り替える

【▲】(DISP)を押すごとに、画面に表示される情報表示の有無が選べます。撮影モード、再生モードでそれぞれ設定できます。

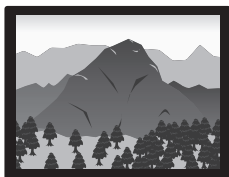
撮影モード

情報表示あり	設定内容などの情報が表示されます。
情報表示、 動画の残り撮影時間、 日付／時刻あり	静止画の設定内容などの情報に加え、動画の残り撮影時間と日付／時刻が画面に表示されます。 • 日付の表示の並び(表示スタイル)は変更することができます(83ページ)。
情報表示なし	設定内容などの情報が表示されません。

再生モード

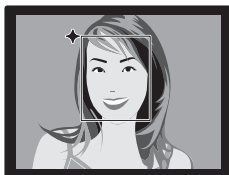
情報表示あり	撮影時の設定内容や日付／時刻などの情報が表示されます。
情報表示なし	撮影時の情報が表示されません。

はじめにご覧ください（基本的な操作）

このカメラでできること

このカメラには、撮影に便利なさまざまな機能が搭載されていますが、ここでは代表的な機能を紹介します。

プレミアムオート撮影

被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、一般的なオート撮影よりも高画質で撮影することができます。

→22ページ

メイクアップ

人物の肌のコンディションをなめらかに整えたり、日差しによる顔の影をやわらげたりして、人物の顔を美しく撮影することができます。

→36ページ

アートショット

見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に仕上げることができます。本機には次の効果が搭載されています。
トイカメラ、ソフトフォーカス、ライトトーン、ポップ、セピア、モノクロ、ミニチュア、フィッシュアイ

→39ページ

マナーモード

撮影時のフラッシュ発光を中止したり、カメラの操作音を消すなど、周囲に配慮しながら撮影できるように設定します。

→37ページ

ベストショット

撮りたいシーンを選んでシャッターを押すことで、最適な設定で写真を簡単に撮影できます。

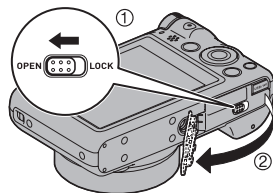
→44ページ

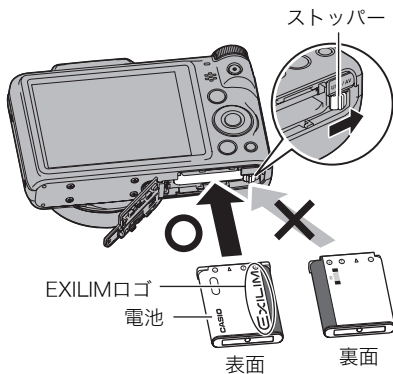
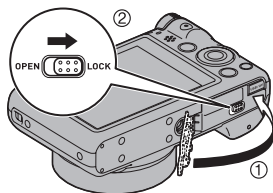
箱を開けたら、電池を充電する

お買い上げ直後は、電池はフル充電されていません。次の手順でカメラに電池を入れた後に充電してください。

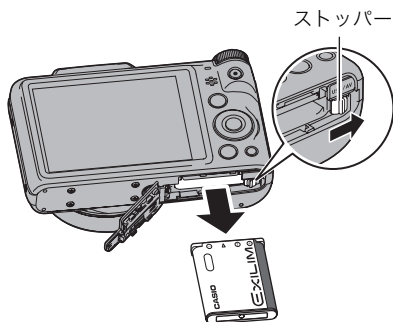
• 本機は、当社の専用リチウムイオン充電池（NP-80）を電源として使用します（NP-80以外の電池は使用できません）。

電池を入れる

1. 電池カバーを開ける

2. 電池を入れる

電池のEXILIMのロゴのある面を上（液晶モニター側）にして、電池の側面でストッパーを矢印の方向にずらしながら電池を入れます。ストッパーが電池にかかるまでしっかり押し込んでください。

3. 電池カバーを閉める

電池を交換する

1. 電池カバーを開き、電池を取り出す

2. 新しい電池を入れる

充電する

電池の充電方法には、次の3種類の方法があります。

①USB-ACアダプターで充電する

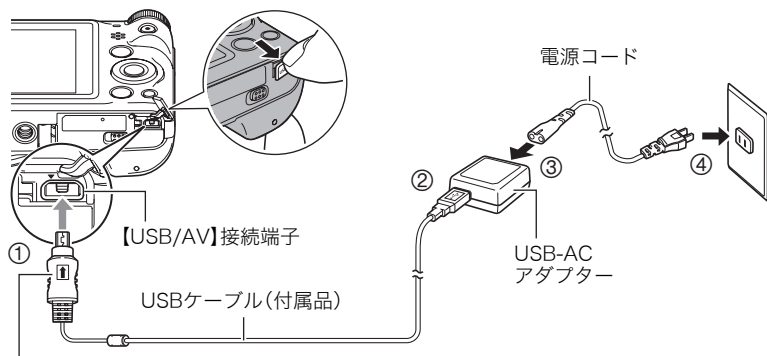
②パソコンのUSB端子から充電する

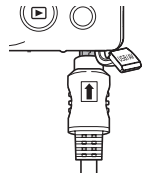
③専用充電器（BC-80L（別売品））で充電する

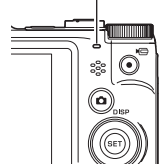
■ USB-ACアダプターで充電する

電池をカメラに装着したまま充電します。

カメラの電源が切れた状態で、①、②、③、④の順に接続します。

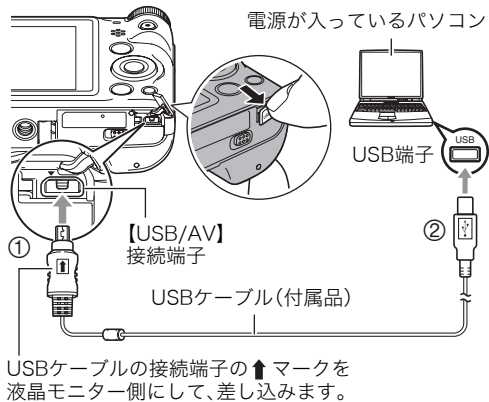
充電時間：約2時間

重要

- USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。

後面ランプの動作

動作	内容
赤点灯	充電中
赤点滅	周辺温度の異常／USB-ACアダプターの異常／電池の異常(90ページ)
消灯	充電完了

■ パソコンのUSB端子から充電する

電池をカメラに装着したまま充電します。

カメラの電源が切れた状態で、①と②の接続をします。パソコンに接続する前にカメラの電源が入っているときは、【ON/OFF】(電源)を押して電源を切ってください。

充電時間：約2時間20分

重要

- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。
- パソコンとの接続環境によっては、パソコンから充電できない場合があります。そのような場合は、USB-ACアダプターでの充電をおすすめします。
- パソコンが休止状態のときは充電できません。

後面ランプの動作

動作	内容
赤点灯 （オレンジ点灯/点滅）	充電中
赤点滅	周辺温度の異常／充電時間の異常／ 電池の異常（90ページ）
消灯（緑点灯）	充電完了

- （　）内は、充電中にカメラの電源を入れたときの動作です。

■ 専用充電器（BC-80L（別売品））で充電する

充電池（NP-80）が直接充電できます。充電方法については、BC-80Lに付属の取扱説明書を参照ください。
約1時間40分でフル充電されます。

その他充電についてのご注意

- 充電池（NP-80）は本書指定の方法で充電してください。
- USB充電に対応する機器や電源機器には、一定の規格があります。粗悪なもの、規格から外れるもののご使用は、機器の誤動作、故障の原因になることがあります。
- 自作のパソコンや改造したパソコンでの動作は保証できません。市販のパソコンでもUSBポートの仕様によっては、USBケーブルを接続しても充電されないことがあります。
- 使用直後の熱くなった電池は、十分に充電されない場合があります。電池が冷えるのを待ってから充電してください。
- 電池は使用しない場合でも、自己放電します。必ず充電してからご使用ください。
- 充電中、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。その場合、テレビやラジオからできるだけ離れたコンセントをご使用ください。
- 充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって若干変化します。
- USB-ACアダプターは本機以外には使用しないでください。

電池の残量を確認するには

電池が消耗すると、液晶モニターに表示される電池残量表示が下記のように変化します。

電池の残量	多い	←――→					少ない
電池残量表示	[電池アイコン]	→	[電池アイコン]	→	[電池アイコン]	→	[電池アイコン]
残量表示の色	水色	→	オレンジ色	→	赤色	→	赤色

“[電池アイコン]”は電池残量が少ないことを表しています。早めに充電してください。
“[電池アイコン]”の状態では撮影できません。すぐに充電してください。

- 撮影モードと再生モードを切り替えた場合、電池残量表示の状態が変わることがあります。
- 電池が入っていない、または消耗している状態でカメラを約30日放置すると、日時の設定がリセットされます。新たに電源を入れたとき、日付の設定をお知らせする画面が表示されますので、日付を設定してください（83ページ）。
- 電池寿命と撮影枚数に関しては101ページをご覧ください。

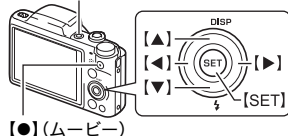
電池を長持ちさせるために

- フラッシュを使用しなくてよいときは、フラッシュの発光方法を“⊛”（発光禁止）にする（33ページ）。
- オートパワーオフ機能やスリープ機能を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな消費電力をおさえることができます（84、84ページ）。

最初に電源を入れたら時計を合わせる

お買い上げ後、最初に電源を入れたときは

時計を設定する画面が表示されます。時計を設定しないと、撮影した画像に正しい日時が記録されません。

1. 後面ランプが一瞬点灯するまで【ON/OFF】（電源）を押す

2. 日付と時刻を合わせる

【◀】【▶】で年、月、日、時、分を選び、【▲】【▼】で数字を合わせます。

12時間／24時間表示を切り替えるには、【●】（ムービー）を押します。

3. 日付／時刻合わせが終了したら、【◀】【▶】を押して“決定”を選び、【SET】を押す

> 日付／時刻を間違って設定した場合、上記の手順では直せません。83ページをご覧になり、設定し直してください。

参考

- 時計を設定しても、すぐに電池を抜くと、設定した時刻がリセットされる場合があります。時計を設定後、24時間以上は電池を入れたままにしておいてください。

メモリーカードを準備する

撮影する画像を保存するため、市販のメモリーカードをご用意ください（本機にメモリーカードは付属していません）。本機はメモリーを内蔵しており、この内蔵メモリーだけでも数枚程度の静止画や短い動画の撮影はできます。メモリーカードを入れているときはメモリーカードに、入れていないときは内蔵メモリーに記録されます。

- 保存できる映像の数量については98ページをご覧ください。

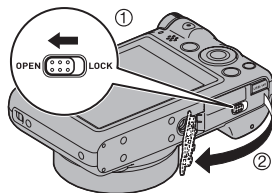
■ 使用できるメモリーカードの種類

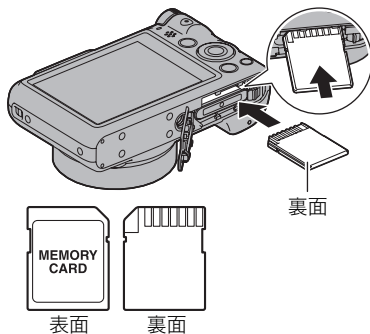
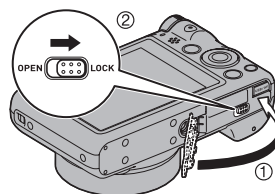
– SDメモリーカード
– SDHCメモリーカード
– SDXCメモリーカード

- メモリーカードの種類は2012年8月現在のものです。
- SD規格に準拠したメモリーカードに対応しており、規格上の容量は、SDメモリーカード2GB以下、SDHCメモリーカード2GB超～32GB以下、SDXCメモリーカード32GB超～2TB以下となります。
  上記のメモリーカードであっても容量をはじめ、すべてのカードで動作を保証するものではありません。
- 本機では、Eye-Fiカードを使用することができます。

当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。具体的なメーカー名や対応容量などの詳細は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトの「デジタルカメラお客様サポートメニュー」（http://casio.jp/support/dc/）をご覧いただくか、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

メモリーカードを入れる

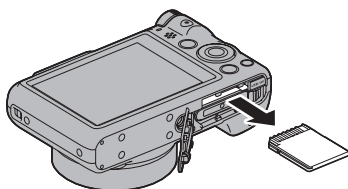
1. 【ON/OFF】（電源）を押して電源を切り、電池カバーを開ける

2. メモリーカードを入れる

メモリーカードの裏面を上(液晶モニター側)にして、メモリーカード挿入口にカチッと音がするまで押し込みます。

3. 電池カバーを閉める

重要

- メモリーカード挿入口には指定のメモリーカード(17ページ)以外のものは入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池を抜いて、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にご連絡ください。

メモリーカードを交換する

メモリーカードを押すとカードが少し出てきますので、引き抜いて別のメモリーカードを入れます。

- 後面ランプが緑色に点滅している間にメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像が記録されなかったり、メモリーカードを破壊する恐れがあります。

新しいメモリーカードをフォーマット(初期化)する

本機で初めて使用するメモリーカードはカメラでフォーマットしてください。

重要

- すでに静止画などが保存されているメモリーカードをフォーマットすると、その内容がすべて消去されます。フォーマットは普段行う必要はありませんが、画像の記録速度が遅くなったなどの異常が見られる場合にフォーマットしてください。
- メモリーカードをフォーマットするときは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットすると、SD規格非準拠となり、処理速度が著しく遅くなるなど、互換性や性能等で問題が生じる場合があります。
- 新しいEye-Fiカードを初めて使用するときは、カードをフォーマットする前に、カード内に書き込まれているEye-Fiマネージャーのインストールファイルをパソコン上にコピーしてからフォーマットしてください。

1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を入れ、【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネル(29ページ)の“MENU”の項目を選び、【SET】を押す

3. 【◀】【▶】で“設定”タブを選ぶ

4. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【▶】を押す

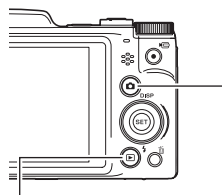
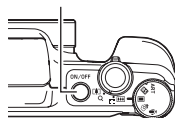
5. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押す

電源を入れる／切る

■ 電源を入れる

【ON/OFF】（電源）を押すと、撮影モードになり、撮影できる状態になります。
この状態で、【▶】（再生）を押すと再生モードになり、撮影した静止画や動画を見ることができます（25、59ページ）。

- 【▶】（再生）を押すと、再生モードで電源が入ります。
- 再生モード中に【📷】（撮影）を押すと、撮影できる状態に戻ります。
- レンズを押さえたりぶつけたりしないようにしてください。レンズを手で押さえ込んでレンズの動きを妨げると、故障の原因になります。
- 【▶】（再生）を押して再生モードに切り替えると、約10秒後にレンズが収納されます。
- スリープ機能、オートパワーオフ機能（84、84ページ）により、一定時間操作しないと、自動的に液晶モニターが消灯したり電源が切れたりします。

【ON/OFF】（電源）

【▶】（再生）　【📷】（撮影）

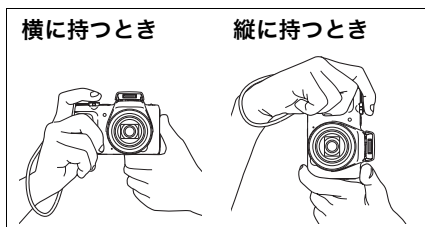
■ 電源を切る

【ON/OFF】（電源）を押します。

参考

- 【📷】（撮影）を押して、電源を入れたり切ったりすることもできます（85ページ）。

カメラの正しい構えかた

シャッターを押すときにカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。
右の図のように持ち、脇をしっかり締めて正しく構えてください。シャッターを静かに押し、シャッターを押し切った瞬間とその直後はカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときはシャッター速度が遅くなるので、注意してください。

参考

- 指やストラップが図に示す部分をふさがないようにしてください。
- 誤ってカメラを落とすことのないように、必ずストラップを取り付け、ストラップに指や手首をかけて操作してください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途には使用しないでください。

静止画を撮影する

オート撮影モードを設定する

本機には2つのオート撮影モードがあり、目的に応じて切り替えることができます。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
オート		一般的なオート撮影モードです。
プレミアムオート		被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、オートよりも高画質で撮影します。 • オートよりも、撮影直後の画像処理に時間がかかります。 • オートよりも、電池寿命はやや短くなります。

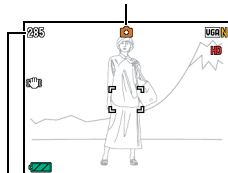
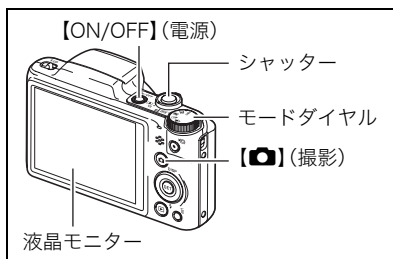
1. 【ON/OFF】（電源）を押して電源を入れる

撮影モードになり、カメラが撮影できる状態になります。

- 再生モードになっているときは、【 】（撮影）を押してください。

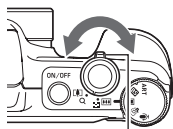
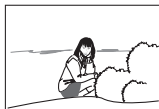
---

2. モードダイヤルを【 】（オート）または【 】（プレミアムオート）に合わせて、オート撮影モードを設定する

オート撮影モードアイコン

撮影可能枚数（98ページ）

撮影する

1. カメラを被写体に向ける

プレミアムオートで撮影しようとすると、カメラが検出した撮影環境が画面右下に表示されます。

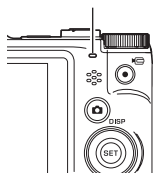
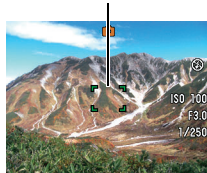
- ズームの倍率を変更できます。

ズームレバー

広角

望遠

2. シャッターを半押ししてピントを合わせる

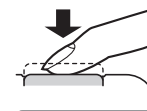
ピントが合うと"ピピッ"と音がして、後面ランプとフォーカスフレームが緑になります。

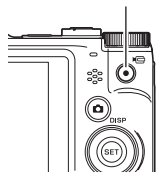
後面ランプ　フォーカスフレーム

半押し　軽く押して止まるところまで

シャッターを半押しすると、カメラを向けている被写体に対して自動的に露出やピントを合わせます。どのくらいの力で押し込むと半押しになるかを覚えるのが、きれいな静止画を撮影するコツです。

3. カメラを固定したままシャッターを最後まで押し込む

静止画が撮影されます。

全押し　最後まで

動画を撮影するには

【●】(ムービー)を押すと動画の撮影が開始されます。もう一度【●】(ムービー)を押すと終了します。詳しくは42ページをご覧ください。

重要

- 手ブレ補正(53ページ)が「入」に設定されている場合、シャッター半押し時に振動と動作音がしますが、故障ではありません。

■ ピントが合っていない場合

フォーカスフレームが赤のままで、後面ランプが緑に点滅しているときは、ピントが合っていません(被写体との距離が近すぎるときなど)。もう一度カメラを被写体に向けて、ピントを合わせてみてください。

■ オートで撮影するとき

被写体が中央にないとき

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロック(50ページ)を使います。

動く被写体を追いかけてピントを合わせるには

シャッターを半押しすることで、動く被写体を追いかけてピントを合わせることができます("[■]トラッキング"(51ページ))。

■ プレミアムオートで撮影するとき

- シャッター速度、絞り値、ISO感度などに加えて、カメラが次の機能なども自動的に作動させて撮影します。
  – シャッターを半押しするまで常にオートフォーカス動作を行い、ピントを合わせ続けます。
  – 画面の中でピントを合わせるべき場所をカメラが自動的に判断し、そこへピントを合わせます。
  – メイクアップ(36ページ)
  お買い上げ直後は、プレミアムオートに設定するとメイクアップは"入"になります。
- プレミアムオートで撮影中はレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。
- プレミアムオートで撮影すると、"プレミアムオート高画質化の処理中です"と表示される場合があります。画像処理時間が気になる場合は、オートに切り替えて撮影することをおすすめします。
- プレミアムオートでは、撮影環境の検出が適切にできない場合があります。その場合は、オートに切り替えて撮影してください。

撮影した静止画を見る

撮影した静止画を液晶モニターで見ることができます。

- 動画の再生方法については59ページをご覧ください。

1. **【▶】(再生)を押して、再生モードにする**

- 記録されている静止画の1つが液晶モニターに表示されます。
- 表示されている静止画についての情報も表示されます(9ページ)。
- 情報表示を消して、静止画だけを見ることもできます(10ページ)。

【▶】(再生)

- ズームレバーを【[♠]】側にスライドさせると画像を拡大して表示します(60ページ)。大切な写真を撮影したときは、撮影した画像を拡大表示して画像を確認することをおすすめします。

---

2. **【◀】【▶】で前後の静止画に切り替える**

- 押し続けると、早送りができます。

【▶】
→
←
【◀】

【▶】
→
←
【◀】

参考

- 再生モード時やメニュー画面を表示している最中にシャッターを半押しすると、すぐに撮影モードに切り替わります。

撮影した静止画や動画を消去する

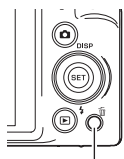
メモリーがいっぱいになっても、撮影した静止画や動画を消去することによりメモリーの残り容量を確保して、また新しい写真撮影ができるようになります。

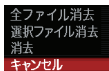
- 本機は撮影モードと再生モードのどちらでも、【🗑】(消去)を押して、簡単にファイルを消去することができます。

【🗑】(消去)

重要

- 消去したファイルは元に戻せません。
- 音声付きの静止画(66ページ)を消去すると、静止画と一緒に音声ファイルも消去されます。
- 動画撮影中／音声録音中は、ファイルを消去することはできません。
- "🗑禁止"(85ページ)を"入"に設定すると、【🗑】(消去)を押しても、消去メニューは表示されません。画像を消去したいときは、"🗑禁止"を"切"にしてください。

■ 1ファイルずつ消去する

1. 【🗑】(消去)を押す

全ファイル消去
選択ファイル消去
消去
キャンセル

2. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させる

3. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す

- 続けて別のファイルを消去する場合は手順2～3を繰り返します。
- 消去をやめるには、【🗑】(消去)を押してください。

■ 選択したファイルを消去する

1. 【🗑】(消去)を押す

2. 【▲】【▼】で“選択ファイル消去”を選び、【SET】を押す

- 消去ファイル選択用の一覧画面が表示されます。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で消去したいファイルに赤枠を移動し、【SET】を押す

- 選択したファイルの□にチェックが入ります。

4. 手順3を繰り返して、消去したいファイルをすべて選択したら、【🗑】(消去)を押す

5. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

- 選択したファイルが消去されます。
- 消去をやめるには、【🗑】(消去)を押してください。

■ すべてのファイルを消去する

1. 【🗑】(消去)を押す

2. 【▲】【▼】で“全ファイル消去”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

すべてのファイルが消去され、“ファイルがありません”と表示されます。

静止画撮影時のご注意

操作について

- 後面ランプが緑に点滅しているときに電池カバーを開けないでください。撮影した画像が正しく保存されない、記録されている画像が壊れてしまう、カメラが正常に動作しなくなる、などの原因になります。
- 不要な光がレンズに当たるときは、手で遮ってください。

撮影時の画面について

- 被写体の明るさにより、液晶モニターの表示の反応が遅くなったり、ノイズが出ることがあります。
- 液晶モニターに表示される被写体の画像は、確認のための画像です。実際は、設定した画質（56ページ）で撮影されます。

蛍光灯の部屋での撮影について

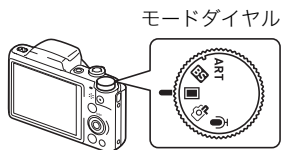
- 蛍光灯のごく微妙なちらつきにより、撮影画像の明るさや色合いが変わることがあります。

■ オートフォーカスの制限事項

- 次のような被写体に対しては、ピントが正確に合わないことがあります。
  - 階調のない壁など、コントラストが少ない被写体
  - 強い逆光のもとにある被写体
  - 明るく光っている被写体
  - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
  - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
  - 暗い場所にある被写体
  - 手ブレをしているとき
  - 動きの速い被写体
  - 撮影範囲外の被写体
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック（50ページ）やマニュアルフォーカス（48ページ）で撮影してみてください。

静止画を撮影する（応用）

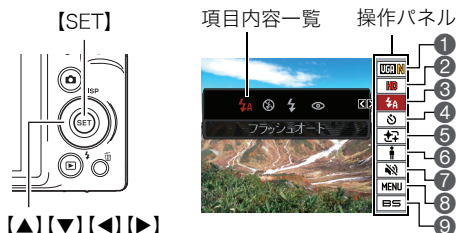
撮影モードを設定する

本機にはさまざまな撮影モードがあります。撮影する前に、モードダイヤルを回して被写体に合った撮影モードに設定してください。

モード	説明
オート	一般的なオート撮影モードです（22ページ）。
プレミアムオート	被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、オートよりも高画質で撮影します（22ページ）。
BS ベストショット	あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、選んだシーンに合わせてカメラの設定が切り替わります（44ページ）。
ART アートショット	見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に仕上げることができます（39ページ）。
ボイスレコード	音声だけを録音します（40ページ）。

操作パネルを使う

本機では、操作パネルを使って、撮影に関しての設定を変更することができます。

1. **撮影モードにして、【SET】を押す**

- 【▼】を押して操作パネルを表示させることもできます。

2. **【▲】【▼】で設定したい項目を選ぶ**

操作パネルのアイコン部分の設定が可能になります。※1

① 静止画の画像サイズ／画質※2（30、56ページ）
② 動画の画質（32ページ）
③ フラッシュ（33ページ）
④ セルフタイマー（35ページ）
⑤ メイクアップ（36ページ）
⑥ ライティング（36ページ）
⑦ マナーモード（37ページ）
⑧ 撮影メニューの表示（47ページ）
⑨ ベストショットシーン（44ページ）／アートショット（39ページ）の選択

※1 撮影モードによって、項目が変わります。
※2 操作パネル上では静止画の画質の切り替えはできません。

3. **【◀】【▶】で設定したい内容を選ぶ**

4. **【SET】を押して決定する**

選んだ内容に決定され、撮影モードの画面に戻ります。

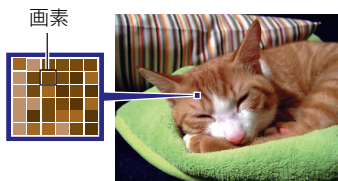
- 続けて他の項目を選ぶときは、【SET】を押さずに【▲】【▼】で他の項目に切り替えます。
- 【🗑】（消去）を押すと、操作パネルを閉じます。

参考

- 操作パネルの各項目が下記のように設定されている場合、画面上に設定状態を示す各項目のアイコン（8ページ）は表示されません。設定を変更すると、画面上に設定状態を示すアイコンが表示されます。
  – フラッシュ：フラッシュオート
  – セルフタイマー：切
  – メイクアップ：切
  – ライティング：切
  – マナーモード：切
- 前記以外に、撮影に関してさまざまな内容の設定を変更することができます（47ページ）。

画像サイズを変更する（画像サイズ）

■ 画素数と画像サイズについて

デジタルカメラの画像は、小さな点（画素・pixels）の集まりでできています。
画素数は、数が多いほど精細な写真が撮れますが、サービスサイズ（L版）へのプリント、Eメールに添付して送る、パソコンの画面で見る、などの用途では画素数が少なくても良い場合があります。その画像がいくつの画素でできているかを示すものが画像サイズで、横×縦の画素数で表します。

例：

画像サイズ	画素数
10M	3648×2736（約1000万画素）
3M	2048×1536（約300万画素）

- 画像サイズが大きいほど画素数が多くなり、メモリーに保存できる枚数が少なくなります。
- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→98ページ
- 動画の画像サイズについて→32ページ
- 撮影済み静止画の画像サイズを小さくする（リサイズ）→65ページ

■ 静止画の画像サイズを設定する

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネル(29ページ)の"静止画の画像サイズ"の項目を選ぶ

3. 【◀】【▶】で画像サイズを選び、【SET】を押す

画素数(pixels)	撮影画面のアイコン表示	プリント時の用紙サイズの目安や用途	特徴
16M (4608×3456)	16M	ポスタープリント	精細な画像が得られ、トリミング(66ページ)しても画像が粗くなりにくいです。
3:2 (4608×3072)	3:2	ポスタープリント	
16:9 (4608×2592)	16:9	HDTVサイズ	
10M (3648×2736)	10M	A3プリント	精細な画像が得られます。
5M (2560×1920)	5M	A4プリント	
3M (2048×1536)	3M	L判プリント	画質より、撮影枚数を優先したいときに有効です。
VGA (640×480)	VGA	Eメール	データ量が少ないので、Eメールに添付するのに有効です。ただし、画像は粗くなります。

- お買い上げいただいたときは、"16M"で撮影するように設定されています。
- "3:2"を選ぶと、プリント用紙の一般的な横縦の比率(3:2)に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。
- HDTVとはHigh Definition TeleVision(高精細テレビ)の略です。HDTVの画面の横縦比は16:9で、従来のテレビの画面(4:3)より横長(ワイド画面)になります。本機はこのHDTVの画面(ワイド画面)の横縦比に合わせて撮影することができます。
- プリント用紙のサイズは、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。

■ 動画の画質を設定する

動画の画質とは、再生したときの画像のきめ細かさやなめらかさ、美しさを示す目安です。画質を高品位(HD)にすると美しく撮影できますが、撮影できる時間は短くなります。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

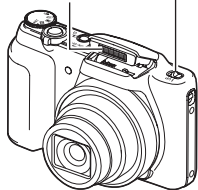
2. 【▲】【▼】で操作パネル(29ページ)の"動画の画質"の項目を選ぶ

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

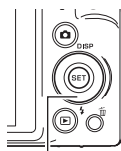
画質(pixels)		撮影画面のアイコン表示	転送レート	フレームレート
HD	1280×720	HD	約30.2メガビット/秒	30フレーム/秒
STD	640×480	STD	約10.6メガビット/秒	30フレーム/秒

- "HD"は画像の横縦比率が16:9になります。
- 画質によって、撮影できる時間が異なります(99ページ)。

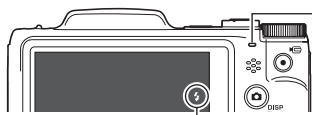
フラッシュを使う(フラッシュ)

フラッシュを使用する場合は、フラッシュスイッチをスライドさせて、フラッシュを開いてください。

1. 撮影モードで【▼】(⚡)を1回押す

2. 【◀】【▶】で発光方法を選び、【SET】を押す

- 【▲】(DISP)を押して情報表示を消したときは、【▼】(⚡)を押していくことで発光方法を選ぶことができます(10ページ)。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
⚡Aフラッシュオート	なし	露出(光の量や明るさ)に応じて自動的に発光します。
⊘発光禁止	⊘	常に発光しません。
⚡強制発光	⚡	常に発光します。日中、逆光で被写体が暗く写るときに設定すると、明るく撮影できます(日中シンクロ撮影)。
◉赤目軽減	◉	自動的に発光します。人の目が赤く写る現象を軽減できます。

3. フラッシュスイッチをスライドさせて、フラッシュを開ける

4. シャッターを押して撮影する

後面ランプ
フラッシュ充電中はオレンジ色に点滅します。
- 充電が完了してオレンジ色の点滅が消えるまでは、次のフラッシュ撮影はできません。

フラッシュ発光時は"⚡"を表示

- フラッシュが届く範囲については、100ページをご覧ください。

重要

- 操作パネル上で発光するように設定していても、フラッシュが開いていなければ、フラッシュは発光しません。
- フラッシュを使用しないときは、カチッと音がするまでフラッシュを押し込んで閉じてください。
- フラッシュの発光面が汚れている場合、汚れがフラッシュの光に反応し、多少、煙や異臭が発生する場合がありますが故障ではありません。フラッシュの発光面に手の脂などの汚れが残ると落としにくくなりますので、こまめに乾いた柔らかい布などで、軽く拭き取ってください。

参考

- フラッシュが指やストラップで隠れないようにしてください。
- 被写体までの距離が遠すぎたり近すぎたりすると、適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間(100ページ)は、使用条件(電池の状態や周囲の温度など)により異なります。
- 暗い場所でフラッシュを"⊛"(発光禁止)にして撮影すると、シャッター速度が遅くなり、手ブレの原因になります。この場合、カメラを三脚などで固定してください。
- 赤目軽減機能では、フラッシュは露出に合わせて自動的に発光します。明るい場所では発光しません。
- 外光や蛍光灯など他の光源があると、色味が変わることがあります。
- フラッシュ撮影が禁止されている場所では指示に従い、フラッシュを"⊛"(発光禁止)に設定してください。

赤目軽減について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写される人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)をすることにより、人の目が赤く写ることを軽減します。
赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。

- 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。
- 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

セルフタイマーを使う(セルフタイマー)

シャッターを押してから一定の時間後にシャッターが切れる(撮影される)ようにすることができます。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネル(29ページ)の"セルフタイマー"の項目を選ぶ

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
10秒セルフタイマー	10s	10秒後に撮影されます。
2秒セルフタイマー	2s	2秒後に撮影されます。シャッター速度が遅くなる条件下で撮影するときに使うと、手ブレ防止ができます。
x3セルフタイマー(トリプルセルフタイマー)	x3	10秒後に1枚、その後撮影準備完了ごとに2枚の合計3枚撮影されます。撮影準備ができるまでの時間は、画像サイズ、画質の設定やメモリーカードの有無、フラッシュの充電状態によって異なります。
OFF セルフタイマー 切	なし	セルフタイマー撮影は行いません。

- 設定した時間をカウントしている最中は前面ランプが点滅します。
- カウントダウン中に【SET】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。

参考

- セルフタイマーが使用できない撮影機能
  連写、ベストショット撮影の一部
- トリプルセルフタイマーが使用できない撮影機能
  動画撮影、メイクアップ

人物の顔を美しく撮影する（メイクアップ）

人物の肌のコンディションをなめらかに整えたり、日差しによる顔の影をやわらげたりして、人物の顔を美しく撮影することができます。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネル（29ページ）の“メイクアップ”の項目を選ぶ

3. 【◀】【▶】で“メイクアップ：入”を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
入		メイクアップ機能が働きます。
切	なし	メイクアップ機能が働きません。

4. 人物にカメラを向け、撮影する

参考

- メイクアップを“入”にすると、顔検出（52ページ）も自動的に“入”になります。
- 下記の機能では、メイクアップを使用できません。
  動画、ベストショット撮影の一部、連写、トリプルセルフタイマー、スーパーマクロ

画像の明るさを最適化する（ライティング）

明るい所と暗い所の明るさのバランスを最適に調整して撮影できます。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネル（29ページ）の“ライティング”の項目を選ぶ

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
入	ON	明るさが補正されます。ただし、撮影後、画像の保存までに時間がかかります。
切	なし	明るさの補正は行いません。

参考

- 動画撮影時は、ライティング機能は無効となります。

周囲に配慮しながら撮影する（マナーモード）

美術館などフラッシュ禁止の場所で、撮影時のフラッシュ発光を中止し、カメラの操作音を消すなど、周囲に配慮しながら撮影できるように設定することができます。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネル（29ページ）の“マナーモード”の項目を選ぶ

3. 【◀】【▶】で“入”を選び、【SET】を押す

画面上に“🔇”が表示され、マナーモードになります。

- マナーモード設定中は、以下の設定に固定され、変更できません。

設定項目	設定内容
フラッシュ	切
セルフタイマー	切
AF補助光	切
操作音	切

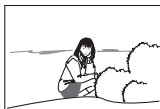
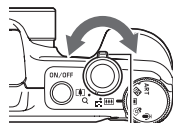
- 設定内容は、下記のページを参照してください。
  - フラッシュ→33ページ
  - セルフタイマー→35ページ
  - AF補助光→51ページ
  - 操作音→81ページ
- 撮影モードをマナーモードに設定すると、再生モードも自動的にマナーモードに設定されます（64ページ）。

ズーム撮影する

光学ズーム（レンズの焦点距離を変える方式）で24.0倍まで、デジタルズーム（画像中央をデジタル処理で拡大する方式）でさらに24.0～382.6倍（光学ズームとの併用）までのズーム撮影ができます。デジタルズームの倍率は画像サイズの設定によって異なります（39ページ）。

1. 撮影モードにして、ズームレバーをスライドさせる

[広角アイコン]広角

[望遠アイコン]望遠

ズームレバー

【広角】（広角）：被写体が小さくなり、写る範囲が広くなります。
【望遠】（望遠）：被写体が大きくなり、写る範囲が狭くなります。

2. シャッターを押して撮影する

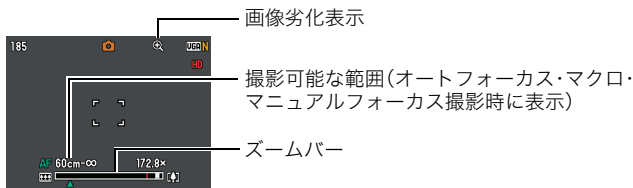
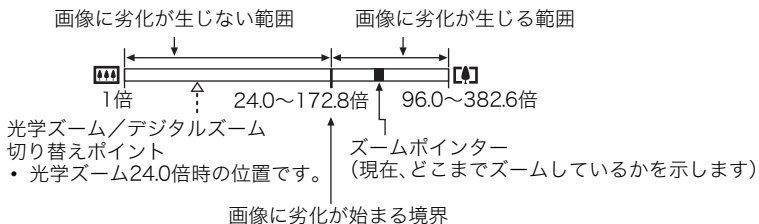
重要

- タイムスタンプ(83ページ)を設定して撮影すると、デジタルズームは働きません。

参考

- デジタルズームでは、倍率が高くなるほど撮影画像は粗くなります(画像サイズによっては、一部粗くならずに撮影できる範囲があります(39ページ))。
- 望遠で撮影するときは、手ブレがおきやすくなるため三脚の使用をおすすめします。
- 光学ズームを働かせると、レンズの絞り値が変わります。
- 動画撮影中はデジタルズームのみ使用できます。【●】(ムービー)を押す前であれば、光学ズームも使用できます。

■ 光学ズームとデジタルズームの切り替えポイント

【[♠]】(望遠)にズームレバーをスライドさせたままにすると、光学ズームの倍率が最も高くなったところでズーム動作が停止します。いったんズームレバーから手を離し、続けて【[♠]】(望遠)にズームレバーをスライドさせるとデジタルズームが作動し、さらにズームの倍率が高くなっていきます。

- ズーム中は、ズームバーでおおよその倍率が確認できます。

- デジタルズームの倍率は画像サイズ(30ページ)の設定によって異なります。画像サイズが小さいほど高倍率になります。
- 一般的にデジタルズームを使用した画像は粗くなりますが、本機では、画像サイズが"10M"以下の場合、右の表の倍率までなら画質劣化が無く撮影することができます(HDズーム)。液晶モニターには、デジタルズームしても劣化しない倍率の境界が表示されており、その境界までは劣化せずにズームできます。劣化しない倍率は、画像サイズによって変化します。

画像サイズ	最大倍率	劣化しない倍率の境界
16M	96.0倍	24.0倍
3:2		
16:9		
10M	121.2倍	30.2倍
5M	172.8倍	43.2倍
3M	215.5倍	54.0倍
VGA	382.6倍	172.8倍

いろいろな作風で撮影する(アートショット)

見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に仕上げることができます。

シーン	内容
トイカメラ	周辺を暗くし、色合いを変えて、トイカメラ風に仕上げます。
ソフトフォーカス	全体をぼかして、やわらかく幻想的に仕上げます。
ライトトーン	コントラストを弱めにして、上品で落ち着いた雰囲気に仕上げます。
ポップ	彩度を強調して、色彩豊かに仕上げます。
セピア	セピアカラーにしてレトロ風に仕上げます。
モノクロ	コントラストを強調し、粒状感をつけ、印象的に仕上げます。
ミニチュア	一部をぼかして、ミニチュア模型を撮影したように仕上げます。
フィッシュアイ	魚眼レンズで撮影したような、ユーモラスな表情に仕上げます。

1. 撮影モードにして、モードダイヤルを【**ART**】(アートショット)に合わせる

2. 【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で操作パネル(29ページ)の一番下の項目(ART)を選び、【SET】を押す

4. 用途に合ったシーンを選び、【SET】を押す

トイカメラ、ソフトフォーカス、ライトトーン、ポップ、セピア、モノクロ、ミニチュア、フィッシュアイの中から選んでください。

5. シャッターを押して撮影する

参考

- 液晶モニター上で効果を確認しながら撮影することはできません。
- アートショットでは、“顔検出”、“メイクアップ”、“カラーフィルター”の機能は使えません。

音声だけを録音する・聞く（ボイスレコード）

静止画や動画は撮影せず、音声だけを録音することができます。

- 録音可能時間に関しては、99ページをご覧ください。

■ 音声だけを録音する

1. 撮影モードにして、モードダイヤルを【🎙】（ボイスレコード）に合わせる

液晶モニターに“🎙”が表示されます。

2. シャッターを押して録音を開始する

- 録音中は、後面ランプが緑色に点滅します。
- 録音中に【SET】を押すと、その部分にマークが付きます。再生するとき、マークの位置に簡単に移動できます。

3. もう一度シャッターを押して録音を終了する

- 続けて次の録音をする場合は手順2、3を繰り返します。
- 録音をやめ、静止画撮影状態に戻るには、モードダイヤルで撮影モードを切り替えてください。

参考

- 音声録音中に【▲】（DISP）を押すと、液晶モニターの点灯／消灯を切り替えることができます。
- 液晶モニターの情報を表示しないように設定したときは、“ボイスレコード”を選ぶと、すぐに液晶モニターが消灯します（10ページ）。

音声データについて

- 音声はパソコンに保存してWindows Media PlayerやQuickTimeで再生することができます。
  – 録音形式：WAVE/IMA-ADPCM記録形式（拡張子は.WAV）

■ 録音した音声を聞く

1. 再生モードにして、【◀】【▶】で再生したいボイスレコードの画面を表示させる

ボイスレコードの画面には、“🎙”が表示されます。

2. 【●】（ムービー）を押して再生を始める

再生中にできること

早送り／早戻しする	【◀】【▶】
再生と一時停止を切り替える	【SET】
マークの位置から再生する	一時停止中に【◀】【▶】を押し、希望のマークの位置で【SET】を押す
音量を調節する	【▼】を押したのち【▲】【▼】を押す
液晶モニターの点灯／消灯を切り替える	【▲】（DISP）
再生をやめる	【●】（ムービー）

参考

- ボイスレコードを消去したいときは、25ページをご覧ください。

動画を撮影する

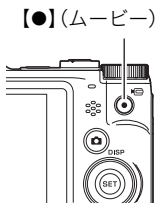
動画を撮影する

1. **撮影前に動画の画質を設定する**(32ページ)

画質ごとに撮影できる時間が異なります。

2. **撮影モードにし、カメラを被写体へ向けてから【●】(ムービー)を押す**

撮影が開始され、液晶モニターに"●REC"が表示されます。

撮影中は音声(モノラル)も録音されます。

3. **もう一度【●】(ムービー)を押して撮影を終了する**

- 撮影可能な動画は、1ファイル最大4GBまでです。これを越えると自動的に撮影は終了します。

ベストショットを利用した動画撮影

ベストショット(44ページ)を利用して、カメラが提案するシーンを選ぶだけできれいな動画を撮影できます(一部のシーンでは動画撮影できません)。

参考

- 動画を長時間撮影した場合、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- 音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
  – 指などでマイクをふさがないでください。
  – 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
  – 撮影中にボタン操作をすると、操作音が録音されることがあります。
  – フォーカス方式を"MF"以外に設定した場合、コンティニュアスAFが動作し、その動作音が録音されることがあります。

マイク

- 極端に明るい被写体を撮影しようとすると、液晶モニターの画像に、縦に尾を引いたような光の帯や画面にピンク色が表示される場合（スミア現象）がありますが、故障ではありません。
- 内蔵メモリー使用時やメモリーカードの種類によっては、処理速度が遅くなる場合がありますので、できるだけ超高速タイプのメモリーカードをご使用ください。ただし、超高速タイプのメモリーカードであっても、すべての動作を保証することはできません。動画の画質設定によっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、" "と"●REC"が点滅します。
- 動画撮影中は、デジタルズームのみ動作します。光学ズームは動作しませんので、光学ズームを使いたいときは、【●】（ムービー）を押す前にズーム操作をしてください。
- アップで撮影したり、高倍率ズームにすると、画像のブレが目立つ場合があります。ブレを防止するためには、三脚を使用することをおすすめします。

撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット)

さまざまな撮影シーンがカメラに収録されています。各シーンには被写体や撮影条件に合った最適なカメラの設定が記録されています。望みのシーン(ベストショット)を選ぶだけで最適なカメラの設定が完了します。

■ 撮影シーンの例

人物を写します	風景を写します	自分撮り(1人)	夜景と人物を写します

ベストショットで撮影する

1. **撮影モードにして、モードダイヤルを【BS】(ベストショット)に合わせる**

2. **【SET】を押す**

3. **【▲】【▼】で操作パネル(29ページ)の一番下の項目(BS)を選び、【SET】を押す**

ベストショットのシーン一覧が表示されます。

4. **【▲】【▼】【◀】【▶】で枠を移動し、シーンを選ぶ**

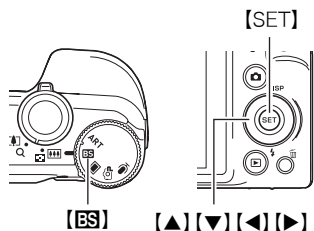
- 【▲】【▼】を押していくと、別のシーン一覧が表示されます。
- 選んだシーンの詳しい内容を確認できます。(45ページ)

5. **【SET】を押して、選んだシーンに決める**

撮影できる状態に戻ります。

- 別のシーンに切り替えるまで、同じシーンの設定で撮影されます。
- 別のシーンを選び直すには、手順1からの操作を繰り返します。

6. **静止画を撮影するときはシャッターを、動画を撮影するときは【●】(ムービー)を押す**

- オート撮影モードに戻るには、モードダイヤルを【■】(オート)または【■】(プレミアムオート)に合わせてください。

■ シーンの説明画面での操作

選んだシーンの説明画面を見たいときは、シーン一覧でズームレバーをスライドさせてください。

- 一覧表示に戻る→ズームレバーをスライドさせる
- 次の（前の）シーンを表示する→【◀】【▶】
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る→【SET】

■ ベストショット撮影時の注意

- ベストショット撮影の一部は、動画撮影には使えません。
- “YouTube”は静止画撮影には使えません。
- YouTubeサイトへアップロードするのに最適な動画が撮影できる“YouTube”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した動画は専用のフォルダに記録されますので、パソコンで簡単に検索することができます（80ページ）。
- オークションサイトへの出展品を撮影する“オークション”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した画像は専用のフォルダに記録されますので、パソコンで簡単に検索することができます（80ページ）。
- “高感度”のシーンについて
  - フラッシュが発光する状態では、高感度撮影が働きません。
  - 極端に暗い環境では、明るく撮影できないことがあります。
  - シャッター速度が遅くなる場合、手ブレを防ぐために三脚を使用してください。
  - 撮影時の明るさに応じて画像にノイズが入るため、自動的にノイズ低減処理をすることがあります。この場合、撮影が終了するまでの時間が長くなる場合があります。
- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。
- 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。

カメラにまかせて自分の顔を撮影する（自分撮り）

カメラを自分に向けるだけで、自動的に撮影することができます。
ベストショットに2つの自分撮りのシーンが用意されています。

- 自分撮り（1人）：自分を含めて1人以上の顔を見つけると、自動的に撮影します。
- 自分撮り（2人）：自分を含めて2人以上の顔を見つけると、自動的に撮影します。

1. ベストショットのシーンで"自分撮り（1人）""自分撮り（2人）"のシーンを選ぶ

2. シャッターを全押しし、カメラを自分を含めた被写体に向ける

シャッターを押してから約3秒後に撮影待機状態となり、カメラが人物の顔を検出します。
規定の人数の顔を検出し、ピントと露出が合うと、"ピピッ"と音がして、自動的に撮影されます。

- 撮影した際、シャッター音が鳴り、前面ランプが2回点滅します。
- 自分撮り撮影を解除するには【SET】を押してください。

重要

- 撮影待機状態が続き、なかなか自動的に撮影されない場合は、再度シャッターを押し込むことで、強制的に撮影することもできます。
- 極端にシャッター速度が遅くなるような暗い場所で撮影した場合、十分な効果が得られずにブレてしまう場合があります。
- 撮影待機状態のとき、オートパワーオフ機能（84ページ）は5分に固定されます。また、スリープ機能（84ページ）は作動しません。

よりよい撮影のための設定

本機では、メニューを操作していろいろな設定ができます。

- 撮影時と再生時でメニュー画面の操作方法･内容が異なります。ここでは撮影メニュー画面の操作方法を説明します。再生メニュー画面の操作方法については、62ページをご覧ください。

メニュー操作を覚える

■ 撮影メニュー画面の操作例

例: “画質設定”タブ、
“□ 画質”選択時

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネル（29ページ）の“MENU”の項目を選び、【SET】を押す

撮影メニュー画面が表示されます。

3. 【◀】【▶】で設定したい項目のあるタブを選ぶ

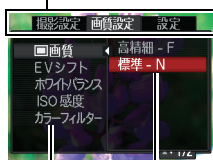
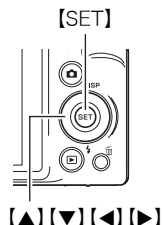
4. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を押す

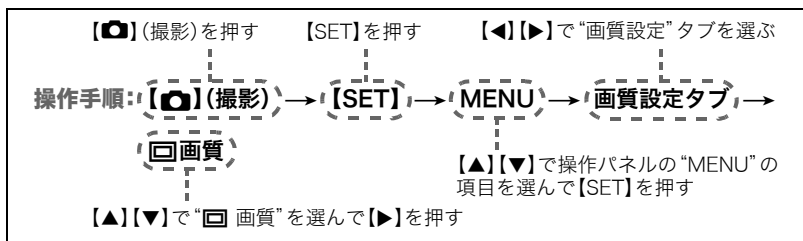
5. 【▲】【▼】で設定したい内容を選ぶ

6. 【SET】を押して決定する

- 【SET】の代わりに【◀】を押すと、選んだ内容に決定され、メニュー画面に戻ります。
- 他のタブを選ぶときは、【◀】を押したあと【▲】または【🗑】（消去）でタブの位置に戻り、【◀】【▶】で切り替えます。

参考

- 【🗑】（消去）を押すと、下記のように動作します。
  - タブを選んでいるときは、撮影画面に戻ります。
  - 設定項目や設定内容を選んでいるときは、設定内容→設定項目→タブの順にメニュー階層が戻ります。
- 撮影モードによっては、使用できないメニューがあります。

■ メニュー操作の本書記載について

本書ではメニュー操作の手順を下記のように記載します。前記の「撮影メニュー画面の操作例」（47ページ）の操作手順を例とすると次のような表記になります。

撮影設定について（撮影設定）

ピントの合わせ方を変える（フォーカス方式）

操作手順：【📷】（撮影）→【SET】→MENU→撮影設定タブ→フォーカス方式

メイクアップ（36ページ）および顔検出機能（52ページ）を"切"にしないと、オートフォーカス以外のフォーカス方式に設定することはできません。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	用途	ピントの合わせかた		ピントが合う距離※1	
			静止画	動画	静止画	動画
AF オートフォーカス	なし	一般的な撮影	自動		約10cm～∞（無限遠）（W端）	距離固定※2
マクロ		近くのものを撮影			約2cm～約50cm（W端から、2段ズーム時）	
スーパーマクロ		近くのものを大きく撮影			約2cm～約50cm	
MF マニュアルフォーカス	MF	手動でピントを合わせたい場合	手動		約10cm～∞（無限遠）（W端）※2	

※1 ピントが合う距離はレンズ表面からの距離です。
※2 最短距離は光学ズームの位置で変わります。

スーパーマクロについて

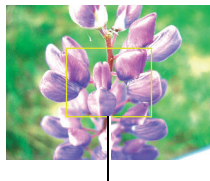
被写体にもっとも近寄って撮影できる状態に光学ズームを固定することにより、被写体をより近くで、より大きく撮影することができます。

参考

- スーパーマクロに設定するとズーム状態は固定され、ズームレバーをスライドさせてもズームは作動しなくなります。

マニュアルフォーカス時のピント合わせ方法

ピント合わせの黄色枠

1. ピントを合わせたい被写体を黄色枠に入れる

2. 液晶モニターを見ながら【◀】(近く)【▶】(遠く)でピントを合わせる

- このとき、ピント合わせがしやすいように拡大表示になります。約2秒間操作をしないと、手順1の画面に戻ります。

参考

- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカスの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- オートマクロ機能は、静止画撮影時のみ使用できます。
- ベストショット撮影の“ミニチュア”または“フィッシュアイ”のシーンを選択した場合は、オートフォーカス･マクロ以外のフォーカス方式に設定することはできません。
- マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像にレンズ部の影が映し込まれることがあります。
- オートフォーカス/マクロ/マニュアルフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
  例:○○※cm - ∞
  ※○○には数字が入ります。
- マニュアルフォーカスを選択しているとき、“左右キー設定”で設定した【◀】【▶】の設定は使用できません(54ページ)。

フォーカスロックについて

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロックを使います。

- AFエリアは、“スポット”にしておきます（51ページ）。

ピントを合わせたい被写体

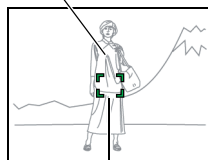
フォーカスフレーム

1. **ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、シャッターを半押しする**

2. **シャッターを半押ししたまま、撮影したい構図にカメラを動かす**

3. **シャッターを最後まで押し込む**

参考

- フォーカスロックと同時に露出（AE）もロックされます。

フォーカスフレームの形を切り替える（フォーカス枠）

操作手順：【】（撮影）→【SET】→MENU→撮影設定タブ→フォーカス枠

フォーカスフレームの形をハートの形など5つの中から切り替えることができます。

設定できる内容					

参考

- シャッター半押し時、フォーカスフレームの形は次のように切り替わります。

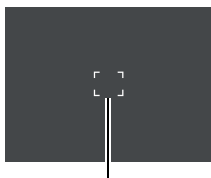
ピントが合っているとき				
ピントが合っていないとき				

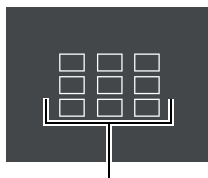
- 顔検出撮影では、フレームの形は【 】となります。

オートフォーカスの測定範囲を変更する（AFエリア）

操作手順：【📷】（撮影）→【SET】→MENU→撮影設定タブ→AFエリア

スポット	中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック（50ページ）を活用した撮影に便利です。
マルチ	シャッターを半押しすると、9つの測距点の中から、自動的に最適な測距点を選びます。ピントが合った場所のフォーカスフレームが緑色で表示されます。
トラッキング	シャッターを半押しすると、ピントを被写体に合わせるとともに、被写体の動きに合わせてフォーカスフレームが追尾します。

"スポット"、
"トラッキング"の場合

フォーカスフレーム

"マルチ"の場合

フォーカスフレーム

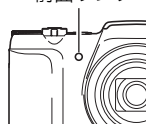
重要

- フォーカス方式（48ページ）で"MFマニュアルフォーカス"を選んでいると、どのAFエリアを選んでもオートフォーカスは動作しません。
- "トラッキング"で追尾しているときはレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。
- 顔検出（52ページ）の使用中は、"AFエリア"の設定にかかわらず、顔が検出できない場合は画面中央でピントを合わせます（スポット）。

ピント合わせを補助するライト（AF補助光）

操作手順：【📷】（撮影）→【SET】→MENU→撮影設定タブ→AF補助光

暗い場所での撮影のときなど、ピント合わせをしやすくするために、シャッター半押し時に必要に応じて前面ランプがAF補助光として発光します。至近距離で人物撮影をするときなどは"切"に設定することをおすすめします。

前面ランプ

重要

- 前面ランプをのぞいたり、人の目に当てないでください。
- 前面ランプに指がかからないようにしてください。

人の顔にピントと明るさを合わせて撮影する（顔検出）

操作手順：【📷】（撮影）→【SET】→MENU→撮影設定タブ→顔検出

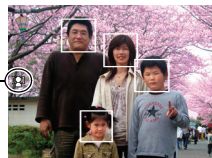
人物を撮影するときに、一度に最大10人まで人物の顔を検出し、ピントと明るさを合わせて撮影します。

1. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押す

2. 人物にカメラを向ける

人物の顔を検出すると、顔にフレームが表示されます。

3. シャッターを半押しする

ピントと明るさが合った顔に、緑色のフレームが表示されます。

顔検出アイコン

4. シャッターを全押しして撮影する

重要

- 顔が検出できない場合は、中央にピントを合わせます。
- 顔検出撮影では、フォーカス方式はオートフォーカス（AF）に固定されます。
- カメラを縦に持って撮影した場合、顔を検出するまでにやや時間がかかります。
- 次のような場合、顔が検出できません。
  – 顔の一部が頭髪、サングラス、帽子などでさえぎられている人物。または顔に濃い影が落ちている人物
  – 顔が横を向いていたり斜めに傾いていたりする人物
  – 距離が遠すぎて、顔が小さすぎる人物。または距離が近すぎて、顔が大きすぎる人物
  – 極端に暗い場所での人物
  – ペットなど人物以外の被写体
- 下記の撮影では、顔検出撮影はできません。
  – ベストショット撮影の一部
  – アートショット
  – 動画撮影
- 顔検出撮影時は、AFエリア（51ページ）の設定は無効になります。
- プレミアムオート（22ページ）、メイクアップ（36ページ）を“入”にすると、顔検出も自動的に“入”になります。

何枚も連続して撮影する（連写）

操作手順：【📷】（撮影）→【SET】→MENU→撮影設定タブ→連写

“入”にすると、シャッターを押し続けている間、メモリーの空き容量いっぱいまで連続撮影ができます。シャッターから指を離すと、撮影を停止します。

参考

- 連写では、露出／フォーカス位置は1枚目を撮影した際に固定されます。
- 下記の撮影では、連写はできません。
  – プレミアムオート
  – メイクアップ
  – ベストショット撮影の一部
  – 動画撮影
  – セルフタイマー
- 連写中は、撮影が終了するまで、カメラを動かさないように注意してください。
- 連写の速度は、設定されている画像サイズや画質によって異なります。
- 連写の速度は、使用するメモリーカードの種類やメモリーの空き容量によって異なります。内蔵メモリーを使用すると連写の速度は遅くなります。

手ブレや被写体ブレを軽減する（手ブレ補正）

操作手順：【📷】（撮影）→【SET】→MENU→撮影設定タブ→手ブレ補正

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに画像がぼやけたり流れて見えることがあります。これはシャッターを押すときにカメラが動いたり（手ブレ）、被写体の動きが速すぎる（被写体ブレ）ことが原因です。手ブレ補正の機能を使って、このようなブレを少なくすることができます。本機には、「CCDシフト方式手ブレ補正機能」と、「高感度被写体ブレ軽減機能」が搭載されています。このふたつを最適に組み合わせて手ブレや被写体ブレを軽減することができます。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
入		手ブレ、被写体ブレを軽減します。
切	なし	ブレ軽減は行いません。
手ブレDEMO		シャッターを半押ししている間、画面上で手ブレ補正の効果を確認することができます。ただし、実際に撮影することはできません。

参考

- 動画撮影時は、ブレ軽減機能は無効となります。
- “入”に設定時は、シャッターを半押ししても、画面上にISO感度、絞り、シャッター速度が表示されません（撮影直後の画像確認画面に表示されます）。
- “入”で撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
- 手ブレや被写体ブレが大きい場合、ブレを軽減できない場合があります。
- 三脚使用時は、手ブレ補正が正常に動作しません。“手ブレ補正”の設定を“切”に設定してください。
- 下記の撮影では、手ブレ補正はできません。
  – ベストショット撮影の一部

左右キーに機能を割り当てる（左右キー設定）

操作手順：【📷】（撮影）→【SET】→MENU→撮影設定タブ→左右キー設定

【◀】【▶】キーに以下の4つのうちどれか1つの機能を割り当てることができます（キーカスタマイズ）。

EVシフト	明るさを補正する→56ページ
ホワイトバランス	色合いを変える→57ページ
ISO感度	ISO感度を変える→58ページ
セルフタイマー※	セルフタイマーの時間を設定する→35ページ
切	【◀】【▶】キーに機能を割り当てない

※メイクアップを“入”にすると、トリプルセルフタイマーに切り替えることはできません。また、連写を“入”にすると、左右キーの設定でセルフタイマーを設定できません。

参考

- 左右キー設定は、以下の撮影機能では使えません。
  – ベストショット撮影の一部

撮影時、液晶モニターに基準線を表示する（グリッド表示）

操作手順：【📷】（撮影）→【SET】→MENU→撮影設定タブ→グリッド表示

撮影時、液晶モニターに方眼を表示します。カメラを水平や垂直に保つ目安線になります。“入”にするとグリッドを表示します。

画面上のアイコンの意味を確認する（アイコンガイド）

操作手順：【 】（撮影）→【SET】→MENU→撮影設定タブ→アイコンガイド

“入”にすると、各種撮影機能を切り替えるときに、アイコンの意味が表示されます。

アイコンの意味を確認できる機能

- 撮影モード、フラッシュ、ホワイトバランス、セルフタイマー、EVシフト

各種設定を記憶させる（モードメモリ）

操作手順：【 】（撮影）→【SET】→MENU→撮影設定タブ→モードメモリ

“入”にすると電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。“切”にすると電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機能	切（初期設定）	入
フラッシュ	オート	最後の状態
フォーカス方式	AF（オートフォーカス）	
ホワイトバランス	オート	
ISO感度	オート	
AFエリア	マルチ	
連写	切	
セルフタイマー	切	
MF位置	MF（マニュアルフォーカス）に切り替える前の位置	
ズーム位置※	ワイド端	

※ズーム位置では光学ズームの位置だけを記憶します。

画質設定について(画質設定)

静止画の画質を設定する(画質(静止画))

操作手順:【】(撮影)→【SET】→MENU→画質設定タブ→画質(静止画)

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
高精細-F	F	画質を優先
標準-N	N	標準

- 枝や木の葉が密集しているようなきめ細かい自然画や複雑な模様を撮影するときは、"高精細-F"にすることで、緻密な画質で撮影できます。
- 画質によって、撮影できる枚数が異なります(98ページ)。

明るさを補正する(EVシフト)

操作手順:【】(撮影)→【SET】→MENU→画質設定タブ→EVシフト

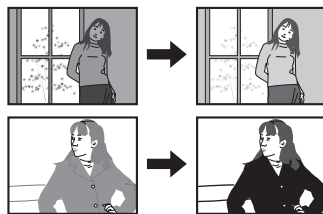
撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を手動で補正することができます。

- 露出補正値:−2.0EV〜＋2.0EV
- 補正単位:1/3EV

1. 【▲】【▼】で露出補正値を選ぶ

【▲】:＋方向に補正。白い物の撮影や逆光での撮影に向きます。

【▼】:−方向に補正。黒い物の撮影や晴天の野外などの撮影に向きます。

露出補正値を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して"0.0"に合わせてください。

2. 【SET】を押す

露出値が補正されます。次に露出補正を変えるまで、設定した露出補正値で撮影できます。ただし、電源を切ると、設定は"0.0"に戻ります。

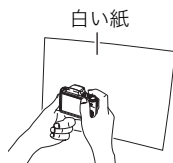
参考

- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

色合いを調整する（ホワイトバランス）

操作手順：【📷】（撮影）→【SET】→MENU→画質設定タブ→ホワイトバランス

曇りの日に写真を撮ると被写体が青っぽく写る、または白色蛍光灯の光で撮ると被写体が緑がかって写るなどの現象を防ぎ、光源に合わせて被写体を自然な色合いで撮影できるように調整します。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
オート	なし	自動的にホワイトバランスを調整
太陽光		晴天時の野外での撮影用
曇天		薄雲～雨天の野外や木陰などの撮影用
日陰		晴天時のビルや木の陰などの撮影用
N昼白色	N	白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
D昼光色	D	昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
電球		電球の雰囲気を消した撮影用
マニュアル	MWB	さまざまな光源下で適正な色に手動で調整することができます。 ①“マニュアル”を選ぶ ②撮影場所で画面全体に白い紙を写した状態でシャッターを押す ③【SET】を押す 白い紙 設定したホワイトバランスは電源を切っても保持されます。

- “オート”では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。この場合は、太陽光、曇天などの撮影条件を指定してください。

ISO感度を変える(ISO感度)

操作手順:【 】(撮影)→【SET】→MENU→画質設定タブ→ISO感度

ISO感度とは、光に対する感度を表したものです。

<table>
<tr><th>設定項目</th><th>撮影画面の
アイコン表示</th><th colspan="3">設定内容</th></tr>
<tr><td>オート</td><td>なし</td><td colspan="3">撮影条件により自動調整します。</td></tr>
<tr><td>ISO 64</td><td>ISO64</td><td rowspan="6">感度が低い
↕
感度が高い</td><td rowspan="6">シャッター速度が遅い
↕
シャッター速度が速い
(暗い場所での撮影向き)</td><td rowspan="6">なめらかに撮れる
(ノイズが減る)
↕
多少ざらつく
(ノイズが増える)</td></tr>
<tr><td>ISO 100</td><td>ISO100</td></tr>
<tr><td>ISO 200</td><td>ISO200</td></tr>
<tr><td>ISO 400</td><td>ISO400</td></tr>
<tr><td>ISO 800</td><td>ISO800</td></tr>
<tr><td>ISO 1600</td><td>ISO1600</td></tr>
</table>

- 動画撮影ではISO感度をどこに設定しても、常に“オート”で撮影されます。
- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズが多少増えます。

全体の色調を変える(カラーフィルター)

操作手順:【 】(撮影)→【SET】→MENU→画質設定タブ→カラーフィルター

設定できる内容:切/白黒/セピア/赤/緑/青/黄/ピンク/紫

- 撮影モードをアートショット(39ページ)に設定すると、カラーフィルターを設定できません。

静止画や動画を再生する

撮影した静止画を見る

操作方法については25ページを参照してください。

撮影した動画を見る

1. 【▶】(再生)を押して、【◀】【▶】で再生したい動画(ムービー)を表示させる

2. 【●】(ムービー)を押して、再生を始める

動画の再生中にできること

早送り／早戻しする	【◀】【▶】 • 押すごとに、早送り、早戻しのスピードが速くなります。 • 通常の再生に戻るときは【SET】を押します。
再生と一時停止を切り替える	【SET】
一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】 • 押し続けると、連続してコマ送りします。
音量を調節する	【▼】を押したのち【▲】【▼】を押す • 音量調節は、再生中にだけできます。
情報表示のあり／なしを切り替える	【▲】(DISP)
拡大する	ズームレバーを【[♠]】(🔍)側にスライドする • 拡大中は、【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大部分を移動できます。動画は4.5倍まで拡大できます。
再生をやめる	【●】(ムービー)

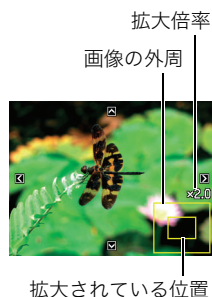
• このカメラで撮影した動画以外は、再生できない場合があります。

画像を拡大して表示する

1. 再生モードにして【◀】【▶】で再生したい画像を表示させる

2. ズームレバーを【[♠]】(🔍)側にスライドさせて、画像を拡大表示させる

【▲】【▼】【◀】【▶】で、拡大表示される位置を変えることができます。ズームレバーを【▣】側にスライドさせると、縮小表示されます。

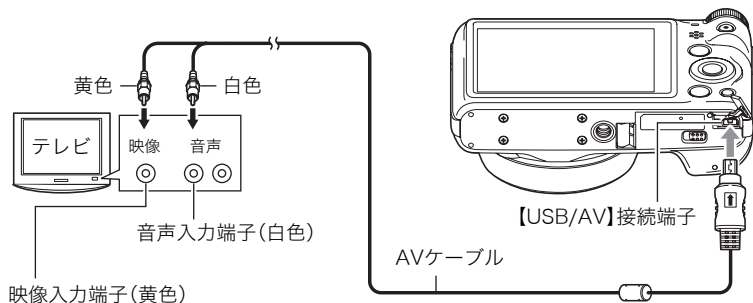
- 液晶モニターに情報を表示しているときは、画像の右下に拡大されている位置が表示されます。
- 元の表示に戻るには【🗑】(消去)を押します。
- 最大8倍まで拡大できますが、画像のサイズによっては、8倍まで拡大できないことがあります。

画像を一覧表示する

1. 再生モードにしてズームレバーを【▣】(▦)側にスライドさせる

【▲】【▼】【◀】【▶】を押していくと、前後の画像を表示します。

通常表示(1枚表示)で見たいときは【▲】【▼】【◀】【▶】を押して、見たい画像に枠を合わせて【SET】を押します。

テレビで静止画や動画を見る

1. 別売のAVケーブル(EMC-7A)でカメラとテレビをつなぐ

- カメラとの詳しい接続方法、接続時の注意などについては、14ページをご覧ください。

2. テレビの映像入力を“ビデオ入力”に切り替える

テレビに映像入力が2つ以上ある場合は、カメラをつないだ映像入力を選んでください。

3. 【▶】(再生)を押す

テレビの画面に画像が表示されます(液晶モニターには何も表示されません)。

- 画面の横縦比とビデオ出力の方式を変更できます(85ページ)。

4. 以後、カメラで再生の操作を行う

参考

- 音声はモノラルになります。
- お使いのテレビによっては、画像の一部が表示されないことがあります。
- 液晶モニターに表示されるアイコンなどは、そのままテレビ画面に表示されます。また、【▲】(DISP)で表示内容を切り替えることもできます。

カメラの画像をDVDレコーダーやビデオデッキに録画する

例として、別売のAVケーブル(EMC-7A)を次のように接続します。

– DVDレコーダーやビデオデッキ側:映像入力端子、音声入力端子
– カメラ側:USB/AV接続端子

このとき、カメラでスライドショーを実行すれば、静止画や動画を記録した思い出のDVDやビデオテープが簡単に作れます。また、【▲】(DISP)を押して画面上の情報表示を消すことで、画像だけを録画することができます(10ページ)。

DVDレコーダーやビデオデッキから出力される画像の見方や録画方法については、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

再生時のその他の機能（再生機能）

ここでは再生モードで操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

いろいろな再生機能や設定の操作を覚える（再生パネル）

再生モードでの機能操作や設定は、【SET】を押すと表示される再生パネルを使って行います。

■ 再生パネルの操作例

1. 再生モードにして【SET】を押す

再生パネルが画面の右側に表示されます。

【SET】

【▲】【▼】

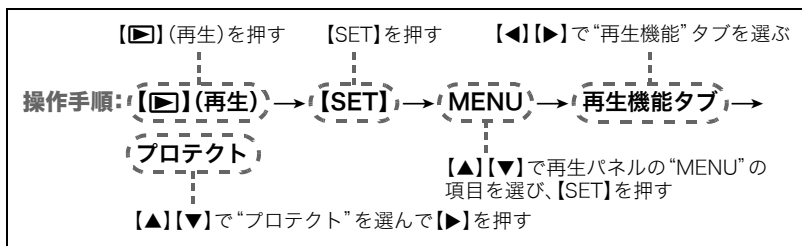
再生パネル

2. 【▲】【▼】で使用したい項目を選び、【SET】を押す

3. 選んだ項目により、下記の操作を行う

⮐ 終了	再生パネルを閉じます。
▶ 再生開始	この項目を選んだときに表示していたファイルの種類によって、次のように動作します。 • 動画の場合：動画を再生します（59ページ）。 • ボイスレコードの場合：ボイスレコードを再生します（41ページ）。 • 音声付き静止画の場合：音声付き静止画の音声を再生します（67ページ）。
スライドショー	スライドショーのメニュー画面が表示されます。以降は「自動的にページ送りして楽しむ（スライドショー）」（63ページ）に従って操作を行ってください。
マナーモード	カメラの操作音を消すことで、周囲に配慮しながら再生することができます。
MENU メニュー	再生メニュー画面が表示されます。以降は次の手順で操作してください。 ①【◀】【▶】で設定したい項目のあるタブを選ぶ ②【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を押す ③【▲】【▼】で設定したい内容を選ぶ ④【SET】を押して決定する タブ：再生機能　設定 回転表示 プリント設定(DPOF) プロテクト リサイズ トリミング アフレコ ▲▼1/2 設定項目 **参考** • 【🗑】（消去）を押すと、下記のように動作します。 – タブを選んでいるときは、再生画面に戻ります。 – 設定項目を選んでいるときは、タブに戻ります。

■ 再生メニュー操作の本書記載について

本書ではメニュー操作の手順を下記のように記載します。前記の「再生パネルの操作例」(62ページ)の操作手順を例とすると次のような表記になります。

自動的にページ送りして楽しむ(スライドショー)

1. 再生モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で再生パネル(62ページ)の“スライドショー”の項目を選び、【SET】を押す

開始	スライドショーを開始します。
時間	スライドショー開始から終了までの時間を設定します。 1〜5分、10分、15分、30分、60分
間隔	切り替わりの間隔を設定します。 1〜30秒、または“最速”を【◀】【▶】で選びます。 1〜30秒を選ぶと、動画や音声付き静止画、音声のみの記録は最初から最後まで再生されます。 “最速”を選ぶと、動画は最初の1コマだけ表示されます。音声のみの記録は再生されません。
エフェクト	エフェクト(特殊効果)を設定します。 入:特殊効果とBGMの再生をする。 切:特殊効果とBGMの再生をしない。

- 【🗑】(消去)を押すとスライドショーを中断します。また、【SET】を押すと中断してメニューに戻ります。
- 音量を調節するには、再生中に【▼】を押したのち【▲】【▼】を押します。
- 画面の切り替わり中はボタン操作ができません。
- 本機以外で撮影した画像では、切り替わる間隔が長くなる場合があります。

周囲に配慮しながら再生する（マナーモード）

カメラの操作音を消すことで、周囲に配慮しながら再生することができます。

1. 再生モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で再生パネル（62ページ）の“マナーモード”の項目を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押す

画面上に“🔇”が表示され、マナーモードになります。

- マナーモード設定中は、以下の設定に固定され、変更できません。

設定項目	設定内容
フラッシュ	切
セルフタイマー	切
AF補助光	切
操作音	切

画像を回転させる（回転表示）

操作手順：【▶】（再生）→静止画を表示→【SET】→MENU→再生機能タブ→回転表示

1. 【▲】【▼】で“回転”を選び、【SET】を押す

【SET】を押すごとに、90°左回りに回転します。

2. 希望の表示状態になったら【🗑】（消去）を押す

参考

- 画像データそのものが回転するわけではありません。液晶モニターでの表示のしかたを変えているだけです。
- プロテクトをかけた画像、拡大表示された画像を回転させることはできません。
- 画像一覧表示では、回転前の画像が表示されます。

印刷する画像を選ぶ（プリント設定）

操作手順：【▶】（再生）→静止画を表示→【SET】→MENU→再生機能タブ→プリント設定（DPOF）

詳しくは68ページをご覧ください。

ファイルを消去できないようにする（プロテクト）

操作手順：【▶】（再生）→【SET】→MENU→再生機能タブ→プロテクト

オン	ファイルごとにプロテクトをかけます。 ①【◀】【▶】でプロテクトをかけたいファイルを表示させる ②【▲】【▼】で“オン”を選び、【SET】を押す プロテクトがかかり、“🔑”が表示されます。 ③続けて別のファイルにプロテクトをかける場合は手順①、手順②を繰り返す プロテクトの設定をやめるには、【🗑】（消去）を押します。プロテクトを解除するには手順②で“オフ”を選んで【SET】を押します。
全ファイル オン	すべてのファイルにプロテクトをかけます。 ①【▲】【▼】で“全ファイル　オン”を選び、【SET】を押す ②【🗑】（消去）を押す すべてのファイルのプロテクトを解除するには、手順①で“全ファイル　オフ”を選んで【SET】を押します。

重要

- プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作（86ページ）を行うと、消去されてしまいます。

画像サイズを小さくする（リサイズ）

操作手順：【▶】（再生）→静止画を表示→【SET】→MENU→再生機能タブ→リサイズ

撮影した静止画のサイズを小さくして、新しい静止画として保存できます。元の静止画も残ります。リサイズ後の画像は10M／5M／VGAの3種類が選択できます。

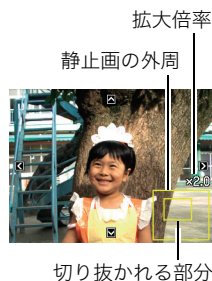
- “3:2”、“16:9”の画像をリサイズすると、画像の両脇が削られ、画像の横縦比が4:3になります。
- リサイズした静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

静止画の一部を切り抜く(トリミング)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【SET】→MENU→再生機能タブ→トリミング

撮影した静止画の一部を切り抜いて、新しい静止画として保存できます。元の静止画も残ります。

ズームレバーで静止画を拡大/縮小、【▲】【▼】【◀】【▶】で表示位置を変えるなどして、切り抜く部分を決めて【SET】を押します。

- “3:2”、“16:9”の画像をトリミングすると、画像の横縦比が4:3になります。
- トリミング後の静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

静止画に音声を付ける(アフレコ)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【SET】→MENU→再生機能タブ→アフレコ

撮影した静止画に、あとから音声を付けることができます(音声付き静止画)。静止画に一度付けた音声を録音し直すこともできます(ひとつの静止画につき最長約30秒まで録音できます)。

1. 【SET】を押して録音を開始する

2. もう一度【SET】を押して録音を終了する

- 録音中は指などでマイクをふさがないようにご注意ください。
- 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
- 音声のデータ形式などは以下のとおりです。
  - 録音形式:WAVE/IMA-ADPCM記録形式(拡張子は.WAV)
- プロテクトをかけた画像に、音声を追加することはできません。
- 音を消したいときは“アフレコ”を選んだあと“消去”を選び、【SET】、【🗑】(消去)の順で押してください。

重要

- 音声を消去、変更すると、音声を元に戻すことはできません。

■ 録音した音声を聞くには

1. 再生モードにして【◀】【▶】で音声付き静止画を表示させる

ファイル形態のアイコン“🎵”が表示されるファイルが音声付き静止画です。

---

2. 【●】（ムービー）を押して、再生を始める

音声の再生中にできること

早送り／早戻しする	【◀】【▶】
再生と一時停止を切り替える	【SET】
音量を調節する	【▼】を押したのち【▲】【▼】を押す
表示内容を切り替える	【▲】（DISP）
再生をやめる	【●】（ムービー）

- 音声付き静止画はパソコンに保存して、音声はWindows Media PlayerやQuickTimeで再生することができます。

ファイルをコピーする（コピー）

操作手順：【▶】（再生）→【SET】→MENU→再生機能タブ→コピー

内蔵メモリーからメモリーカードへ、またはメモリーカードから内蔵メモリーへ、ファイルをコピーすることができます。

内蔵→カード	内蔵メモリーからメモリーカードにコピーします。 この操作では、すべてのファイルがコピーされます。1ファイルずつ指定してコピーすることはできません。
カード→内蔵	メモリーカード内のファイルをひとつずつ内蔵メモリーにコピーできます。ファイルは、内蔵メモリーの一番大きい番号のフォルダにコピーされます。 ①【◀】【▶】でコピーしたいファイルを選ぶ ②【▲】【▼】で“コピー”を選び【SET】を押す

参考

- コピーできるのは、カメラで撮影した静止画、動画、音声付き静止画、ボイスレコードファイルだけです。

プリント(印刷)する

静止画のプリント方法

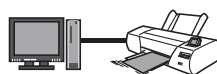
お店で　プリントする※

画像が入ったメモリーカードを、**プリントサービスのお店**に持参してプリントします。

プリンターで　プリントする※

プリンターのスロットにメモリーカードを直接セットしてプリントできます。詳しくは、プリンターに付属の説明書に従って操作してください。

パソコンを使って　プリントする

画像をパソコンに取り込んだ後、市販のプリントソフトを使ってプリントします。

※プリントしたい画像や枚数、日付の情報を設定しておくことができます。→68ページ

プリントする画像や枚数を指定しておく(DPOF)

■ DPOF(Digital Print Order Format)とは

プリントしたい「画像の種類」「枚数」「日付印刷の有無」を設定し、メモリーカードなどの記録媒体に記録するための規格です。DPOF対応の家庭用プリンターやプリントサービス店でプリントすることができます。

- プリンターによっては、DPOFに対応していない場合があります。
- お店でプリントをする場合、DPOF機能を利用できない場合があります。

■ 画像ごとにプリント枚数を指定する

操作手順: **【▶】(再生)→静止画を表示→【SET】→MENU→再生機能タブ→プリント設定(DPOF)→選択画像**

1. 【◀】【▶】でプリントしたい画像を表示させる

2. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は"00"にしてください。

- 日付をプリントしたい場合は、【●】(ムービー)を押して日付印刷を"あり"にします。
- 他の画像をプリントする場合は、手順1～2を繰り返してください。

3. 【SET】を押す

■ すべての画像に同じプリント指定をする

操作手順：【▶】（再生）→静止画を表示→【SET】→MENU→再生機能タブ→プリント設定（DPOF）→全画像

1. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 日付をプリントしたい場合は、【●】（ムービー）を押して日付印刷を“あり”にします。

---

2. 【SET】を押す

プリントが完了してもDPOFの設定は解除されません

次回プリント時に前回設定した画像がある場合は、前回設定のままプリントされます。設定を解除する場合は、全画像プリントの枚数設定を“00”にしてください。

お店でプリントするときに気をつけていただきたいこと

お店にプリントを注文する場合は、注文時に「DPOFでプリントする画像、枚数、日付を設定済みです」とお伝えください。お伝えいただかないと、設定された内容（画像、枚数、日付）が反映されず、すべての画像がプリントされたり、日付がプリントされないことがあります。

■ 日付プリントについて

以下の方法で、画像に撮影時の日付を入れてプリントできます。

カメラで設定する	DPOF機能で設定する（68ページ） 印刷するごとに、日付印刷の有無を指定できます。 日付を入れて印刷する画像と日付を入れない画像に分けることができます。
	タイムスタンプ機能で設定する（83ページ） • 撮影時点ですべての画像に日付が写し込まれますので、印刷時には必ず日付が印刷されます（写し込まれた日付は消去できません）。 • タイムスタンプ機能で日付を写し込んだ画像には、DPOF機能で日付印刷を設定しないでください。日付が二重に印刷されてしまいます。
パソコンで設定する	市販の画像編集ソフトで日付を入れてプリントする
お店に依頼する	プリントを注文するとき、お店に日付をプリントするよう依頼する

■ 本機の対応規格

- Exif Print

  Exif Printは、対応プリンターをお使いの場合に画像ファイルに記録された撮影情報を印刷出力に反映させることを可能にします。Exif Print対応プリンターの機種名やプリンターのバージョンアップなどについては、各プリンターメーカーにお問い合わせください。

パソコンを利用する

パソコンを使ってできること

カメラをパソコンに接続して、次のことができます。

パソコンに画像を保存して見る		• 手動でパソコンに保存して見る(USB接続)(72、75ページ)。 • 無線LAN経由で自動的にパソコンに転送して見る(Eye-Fi通信)(78ページ)。
動画を再生・編集する		• 動画を再生することができます(74、77ページ)。 • 動画を編集する場合は、必要に応じて、市販のソフトをご利用ください。
パソコンに保存した画像をカメラに戻す		画像以外にも、パソコンに表示されている画面をカメラに転送できます(Photo Transport※)。
YouTubeサイトへの動画のアップロード		ベストショットの“YouTube”シーンで撮影した動画ファイルを簡単にYouTubeのWebサイトへアップロードすることができます(YouTube Uploader for CASIO※)。

※Windows専用です。

カメラとパソコン、ソフトを使ってできることや操作のしかたは、Windowsパソコンの場合とMacintoshの場合で異なります。

• Windowsパソコンの場合→「Windowsパソコンを利用する」(71ページ)
• Macintoshの場合→「Macintoshを利用する」(75ページ)

Windowsパソコンを利用する

OSのバージョンおよび使用目的に応じて、必要なソフトをインストールしてください。

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
パソコンに手動で画像を保存して表示	Windows 7／ Windows Vista／ Windows XP(SP3)	インストールする必要はありません。	72
動画の再生	Windows 7／ Windows Vista／ Windows XP(SP3)	インストールする必要はありません。 • パソコンにすでにインストールされているWindows Media Playerで再生することができます。	74
カメラへの 画像の転送	Windows 7／ Windows Vista／ Windows XP(SP3)	**Photo Transport 1.0**※ • 以下のWebサイトからダウンロードしてください。 http://casio.jp/support/dc/ • 操作方法については、以下のWebサイトから取扱説明書をダウンロードしてください。 http://www.exilim.com/manual/ • 動作環境 メモリー：64MB以上 HDD：約2MB以上	－
YouTubeサイトへの動画の アップロード	Windows 7／ Windows Vista／ Windows XP(SP3)	**YouTube Uploader for CASIO**※ • 以下のWebサイトからダウンロードしてください。 http://casio.jp/support/dc/ • 操作方法については、以下のWebサイトから取扱説明書をダウンロードしてください。 http://www.exilim.com/manual/	－

※Photo TransportおよびYouTube Uploader for CASIOは、64bitのWindows OSには対応していません。

■ ソフトをWindowsで使用する場合のご注意

- ソフトは、管理者（Administrator）権限以外は使用できません。
- 自作パソコンでのサポートは行っていません。
- お客様のパソコン環境によっては、対応できない場合があります。

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

カメラをパソコンに接続して、画像（静止画や動画などのファイル）をパソコンに保存したり、パソコンで見ることができます。

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。
画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要

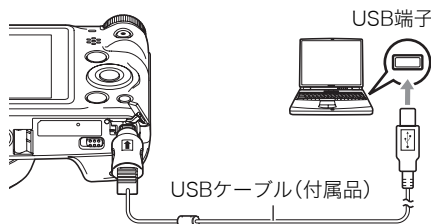
- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

参考

- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

1. カメラの電源を切り、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

- カメラとの詳しい接続方法、接続時の注意などについては、14ページをご覧ください。

2. カメラの電源を入れる

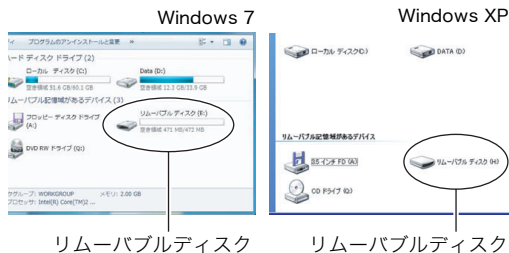
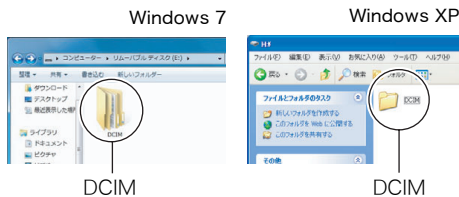
- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。
- カメラの電源を入れても、電池の充電は続けます。

3. Windows 7／Windows Vista：“スタート”→“コンピュータ”の順でクリックする
Windows XP：“スタート”→“マイコンピュータ”の順でクリックする

Windows 7

Windows XP

4. “リムーバブルディスク”をダブルクリックする

- メモリーカードまたは内蔵メモリーは、「リムーバブルディスク」として認識されています。

5. “DCIM”フォルダを右ボタンでクリックする

6. メニューの“コピー”をクリックする

7. Windows 7／Windows Vista：“スタート”→“ドキュメント”の順でクリックする
Windows XP：“スタート”→“マイドキュメント”の順でクリックする

- すでに“DCIM”フォルダが保存されている場合は、上書きされてしまいます。すでに保存されている“DCIM”フォルダの名前を変えるなどしてからコピーしてください。

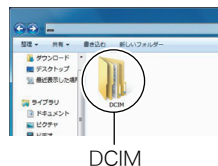
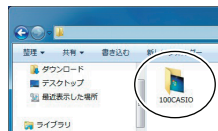
8. Windows 7：“ドキュメント”メニューで、“整理”→“貼り付け”の順でクリックする
Windows Vista：“ドキュメント”メニューで、“編集”→“貼り付け”の順でクリックする
Windows XP：“マイドキュメント”メニューで、“編集”→“貼り付け”の順でクリックする

“DCIM”フォルダ（画像ファイルが保存されているフォルダ）が“ドキュメント”（Windows 7／Windows Vista）または“マイドキュメント”（Windows XP）フォルダにコピーされ、画像も一緒にパソコンに保存されます。

9. コピーが終了したらカメラをパソコンからはずす

カメラの【ON/OFF】（電源）を押して電源を切り、後面ランプが消灯もしくは赤く点灯しているのを確認し、USBケーブルをはずしてください。

■ パソコンに保存した画像を見る

1. コピーした“DCIM”フォルダをダブルクリックして、フォルダを開く

2. 見たい画像が入ったフォルダをダブルクリックして開く

3. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」(80ページ)を参照ください。
- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。

動画を再生する

動画はパソコンにすでにインストールされているWindows Media Playerで再生することができます。パソコンに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。

■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS　　　　　　　：Windows 7／Windows Vista／Windows XP(SP3)
CPU　　　　　　：画質HDの場合：Pentium 4　3.2GHz以上
　　　　　　　　　画質STDの場合：Pentium M　1.0GHz以上
　　　　　　　　　　　　　　　　　Pentium 4　2.0GHz以上
必要なソフトウェア：Windows Media Player、DirectX 9.0c以上

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

■ 動画再生のご注意

- 必ず動画データはパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。
- お使いのパソコンの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は以下をお試しください。
  - 動画の画質を"STD"に設定して撮影する。
  - 最新のWindows Media Playerにバージョンアップする。
  - 開いている他のソフトウェアを閉じたり、常駐ソフトを止める。

なお、パソコンで正しく動作しない場合でも、別売のAVケーブル(EMC-7A)を使って映像入力端子を持ったテレビやパソコンで再生することができます。

Macintoshを利用する

Mac OSのバージョンおよび使用目的に応じて、必要なソフトをインストールしてください。

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
パソコンに手動で画像を保存して表示	OS X	インストールする必要はありません。	75
パソコンに自動的に画像を保存／画像の管理	OS X	一部のMac製品本体に付属のiPhotoが利用できます。	–
動画の再生	OS X	OSにバンドルされているQuickTimeで再生できます。	77

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。
画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要

- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。
- Mac OS Xの10.0ではご使用できません。10.1、10.2、10.3、10.4、10.5、10.6、10.7のみで使用できます(OS標準のUSBドライバを使用)。

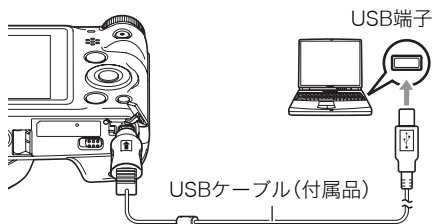
参考

- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

1. カメラの電源を切り、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

- カメラとの詳しい接続方法、接続時の注意などについては、14ページをご覧ください。

---

2. カメラの電源を入れる

カメラの後面ランプが緑色またはオレンジ色に点灯します。パソコンは、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを「ドライブ」として認識します。Mac OSのバージョンにより、表示されるアイコンが異なる場合があります。

- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。
- カメラの電源を入れても、電池の充電は続けます。

---

3. 表示されたドライブをダブルクリックする

---

4. “DCIM”フォルダをデスクトップにドラッグアンドドロップして、画像をパソコンにコピーする

---

5. コピーが終了したらドライブを“取り出し”または“ゴミ箱”へドラッグアンドドロップする

---

6. カメラの【ON/OFF】（電源）を押して電源を切り、後面ランプが消灯もしくは赤く点灯しているのを確認し、USBケーブルをはずす

■ パソコンに保存した画像を見る

1. 表示されたドライブをダブルクリックする

---

2. “DCIM”フォルダをダブルクリックして、フォルダを開く

---

3. 見たい画像が入ったフォルダをダブルクリックして開く

---

4. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」（80ページ）を参照ください。
- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。

動画を再生する

動画はMacintoshにすでにインストールされているQuickTimeで再生することができます。Macintoshに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。

■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS　　　　　　　：Mac OS X 10.3.9以降
必要なソフトウェア：QuickTime 7以降

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

■ 動画再生時のご注意

お使いのMacintoshの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は、以下をお試しください。

– 動画の画質を“STD”にして撮影する
– 最新のQuickTimeにバージョンアップする
– 実行中の他のソフトウェアを終了する

なお、Macintoshで正しく動作しない場合でも、別売のAVケーブル(EMC-7A)を使って映像入力端子を持ったテレビやMacintoshで再生することができます。

重要

- 必ず動画データはパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。

無線LAN内蔵SDメモリーカード(Eye-Fiカード)を使って画像を転送する(Eye-Fi通信)

市販のEye-Fiカードをカメラに入れて撮影すると、無線LAN経由で画像データを自動的にパソコンなどに転送することができます。

1. Eye-Fiカードに付属の取扱説明書に従って、Eye-Fiカードに無線LANアクセスポイントや転送先などを設定する

---

2. 設定の終了したEye-Fiカードをカメラに入れ、撮影する

撮影した画像が、無線LANにより自動的にパソコンなどに送信されます。

- 具体的な使用方法は、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書を参照ください。
- 新しいEye-Fiカードを初めて使用するときは、カードをフォーマットする前にカード内に書き込まれているEye-Fiマネージャーのインストールファイルをパソコン上にコピーしてからフォーマットしてください。

重要

- 撮影した画像は無線LANにより転送されるので、航空機内など無線通信の使用が制限または禁止されている場所では、Eye-Fiカードを使用しないか、Eye-Fiカードによる通信を切ってください(81ページ)。
- Eye-Fiカードをカメラに入れると、画面上にEye-Fiアイコン“Eye-Fi”が表示されます。

半透明	Eye-Fi	アクセスポイントが見つからない。 または、転送すべき画像データがない。
不透明	Eye-Fi	画像転送中
点滅	Eye-Fi	アクセスポイント検索中

- 画像データ転送中は、画面上に転送アイコン“>>>>>”が表示されます。
- 画像転送中、オートパワーオフ機能(84ページ)は作動しません。
- 画像転送中に電源を切ろうとすると、画面にメッセージが表示されます。その場合は、メッセージに対応した処置をしてください(97ページ)。
- 多数の画像データを転送すると、転送に時間がかかる場合があります。
- Eye-Fiカードの種類、設定によっては、画像データ転送後、Eye-Fiカードに保存された画像データは消去されてしまいます。
- Eye-Fiカードで動画を撮影すると、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。
- カメラの設定や電池の電圧、環境によって、Eye-Fiカードが正しく通信できない場合があります。

ファイルとフォルダについて

本機では、撮影した静止画などのひとつひとつが個別のデータとして記録されます。個別のデータのことを「ファイル」と呼びます。各ファイルは、「フォルダ」と呼ばれるまとまりにグループ分けされます。ファイル、フォルダには、区別のための名前が自動的に付きます。

- フォルダ構造の詳細は、「メモリー内のフォルダ構造」(80ページ)をご覧ください。

	名前と最大作成数	例
ファイル	“CIMG0001”から“CIMG9999”までで、最大9999個のファイルが1つのフォルダに作成されます。拡張子は記録したファイルの形式によって異なります。	26番目に記録したファイル名: CIMG0026.JPG 0026: 連番(4桁)　JPG: 拡張子
フォルダ	“100CASIO”から“999CASIO”までで、最大900のフォルダが作成されます。 • ベストショットにはオークションサイトへの出展品を撮影する“オークション”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、フォルダ名は「100_AUCT」となります。 • ベストショットにはYouTubeサイトへアップロードするのに最適な動画を撮影する“YouTube”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、フォルダ名は「100YOUTB」となります。	連番100のフォルダ名: 100CASIO 100: 連番(3桁)

- フォルダ名、ファイル名は、パソコンで見ることができます。カメラの液晶モニターでの表示については、9ページをご覧ください。
- 保存できるフォルダ数、ファイル数は、サイズや画質、メモリーカードの容量によって異なります。

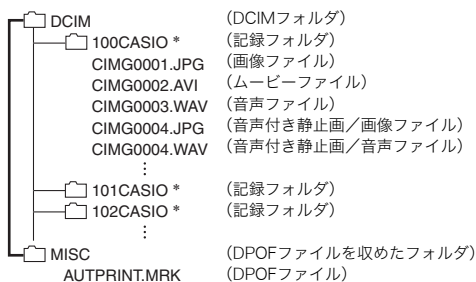
メモリー内のデータについて

本機で撮影された画像は、DCF（Design rule for Camera File system）規格に準拠した方法でメモリーへ保存されます。

■ DCF規格について

- 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見ることができます。
- 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のプリンターで印刷することができます。
- DCF規格対応の他社のカメラの画像を本機で見ることができます。

ただし、上記項目の動作はすべて保証するものではありません。

■ メモリー内のフォルダ構造

* ベストショットにはオークションサイトへの出展品を撮影する“オークション”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、記録フォルダ名は「100_AUCT」となります。また、ベストショットにはYouTubeサイトへアップロードするのに最適な動画を撮影する“YouTube”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、記録フォルダ名は「100YOUTB」となります。

■ このカメラで扱える画像ファイル

- 本機で撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

DCF規格の画像ファイルでも、使用できない機能がある場合があります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

■ パソコン上で内蔵メモリー／メモリーカードを扱うときのご注意

- メモリーの内容をパソコンに保存する際は“DCIM”フォルダごと保存してください。その際“DCIM”フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンに保存したファイルをカメラに戻す場合は、フォルダ名をパソコン上で“DCIM”に戻しておいてください。本機では“DCIM”以外の名前のフォルダは認識されません。“DCIM”フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。
- フォルダやファイルをカメラで正しく認識させるためには、メモリー内のフォルダ構造が80ページのフォルダ構造のとおりである必要があります。

その他の設定について

ここでは撮影モードと再生モードのどちらでも操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

撮影メニューの操作については47ページを、再生メニューの操作については62ページをご覧ください。

Eye-Fiカードによる通信を切る（Eye-Fi通信）

操作手順：【SET】→MENU→設定タブ→Eye-Fi通信

Eye-Fiカードを使った通信（78ページ）を完全に切りたいときは“切”にしてください。

カメラの音を設定する（操作音）

操作手順：【SET】→MENU→設定タブ→操作音

<table>
<tr><td>起動音</td><td rowspan="4">音色を設定します。
サウンド1〜5：内蔵されたサンプル音が鳴ります。
切：音は鳴りません。</td></tr>
<tr><td>ハーフシャッター</td></tr>
<tr><td>シャッター</td></tr>
<tr><td>操作音</td></tr>
<tr><td>操作音</td><td>操作音の音量を設定します。ビデオ出力時（60ページ）の音量にも反映されます。</td></tr>
<tr><td>再生音</td><td>動画や音声付き静止画の音量を設定します。ビデオ出力時（60ページ）の音量にも反映されます。</td></tr>
</table>

- 音量を“0”に設定すると、音は鳴りません。

撮影した静止画を起動画面に表示させる（起動画面）

操作手順：【SET】→MENU→設定タブ→起動画面

起動画面にしたい静止画を表示させて“入”を選びます。

- 【▶】（再生）を押して電源を入れた場合は、起動画面は表示されません。
- 起動画面には、静止画の他にカメラに内蔵されている起動画面用の専用画像が設定できます。
- 音声付き静止画の音声は再生されません。
- 登録した起動画面は、内蔵メモリーをフォーマット（86ページ）すると消去されます。

画像の連番のカウント方法を切り替える（ファイルNo.）

操作手順：【SET】→MENU→設定タブ→ファイルNo.

撮影時に画像に付く連番（79ページ）のカウント方法を切り替えます。

メモリする	今まで撮影したファイルの連番を記憶します。ファイルを消去したり、何も記録されていないメモリーカードに交換しても、記憶した連番からファイル名を付けます。メモリーカードにファイルが残っている場合で、残っているファイルのファイル名がカメラの記憶した連番より大きい場合は、残っているファイルの最大の連番＋1からファイル名が付きます。
メモリしない	ファイルをすべて消去したり、何も記録されていないメモリーカードに交換すると、ファイルの連番を継続せずに、0001番からファイル名を付けます。メモリーカードにファイルが残っている場合は、残っているファイルの最大の連番＋1からファイル名を付けます。

海外旅行先での時刻を設定する（ワールドタイム）

操作手順：【SET】→MENU→設定タブ→ワールドタイム

自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示することができます。世界162都市（32タイムゾーン）に対応しています。

1. 【▲】【▼】で"訪問先"を選び、【▶】を押す

- 通常の時刻表示の地域･都市を変更するときは"自宅"を選びます。

2. 【▲】【▼】で"都市"を選び、【▶】を押す

- "訪問先"の設定でサマータイムを設定するときは、【▲】【▼】で"サマータイム"を選び、"入"に設定します（サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うため、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです）。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で地域を選び、【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で都市を選び、【SET】を押す

5. 【SET】を押す

重要

- ワールドタイムを設定する前に、自宅の都市が自分の住んでいる地域になっているかどうかを確認してください。自分の住んでいる地域になっていない場合は、手順1で"自宅"を選んで自宅の都市を変更し、続けて日時を設定し直してください（83ページ）。

日付や時刻を写し込む(タイムスタンプ)

操作手順:【SET】→MENU→設定タブ→タイムスタンプ

撮影時に静止画の右下に、日付や時刻を写し込むことができます。

例)2015年7月10日 午後1時25分

日付	2015/7/10
日付+時刻	2015/7/10 1:25pm
切	日付/時刻は写し込まれません。

- いったん画像に写し込まれた日付や時刻を変更したり、消すことはできません。
- タイムスタンプ機能を使用しなくてもDPOF機能や印刷用ソフトで、日付や時刻を入れてプリントすることができます(69ページ)。

- タイムスタンプを設定して撮影すると、デジタルズームは働きません。
- ベストショット撮影の一部では、タイムスタンプは無効となります。

カメラの日時を設定し直す(日時設定)

操作手順:【SET】→MENU→設定タブ→日時設定

日時を変更した後は【SET】を押して修正結果を確定させます。

【▲】【▼】	カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】	カーソル(選択枠)を移動します。
【●】(ムービー)	12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

- 入力できる日付は、2001年〜2049年です。
- 日時を設定する前にワールドタイムの自宅の設定(82ページ)を自分の住んでいる地域にしないと、ワールドタイムの日時が正しく表示されません。

日付の表示の並びを変える(表示スタイル)

操作手順:【SET】→MENU→設定タブ→表示スタイル

画面に表示される日付の表示スタイルを3つの中から選ぶことができます。

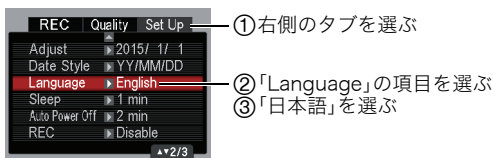
例)2015年7月10日

年/月/日	15/7/10
日/月/年	10/7/15
月/日/年	7/10/15

表示言語を切り替える(Language)

操作手順:【SET】→MENU→設定タブ→Language

画面のメッセージの言語を設定します。

■ 画面が外国語表示になってしまったとき

電池の消耗を抑える(スリープ)

操作手順:【SET】→MENU→設定タブ→スリープ

一定時間操作しないと液晶モニターの表示を消し、後面ランプが緑色に点灯します。何かボタンを押すと、表示が戻ります。

設定できる値:30秒/1分/2分/切(切を選ぶと、スリープ機能が作動しません)

- 以下の状態のときは、スリープ機能は働きません。
  - 再生モード
  - カメラをパソコンなどの機器に接続しているとき
  - "[アイコン]トラッキング"追尾中
  - ボイスレコード録音・再生中
  - 動画撮影・再生中
- スリープ機能とオートパワーオフ機能の設定が同じ時間の場合、オートパワーオフ機能が優先されます。

電池の消耗を抑える(オートパワーオフ)

操作手順:【SET】→MENU→設定タブ→オートパワーオフ

電池消耗を抑えるため、一定時間操作しないと電源が切れます。

設定できる値:1分/2分/5分(再生モードでは5分に固定されます)

- 以下の状態のときは、オートパワーオフ機能は働きません。
  - カメラをパソコンなどの機器に接続しているとき
  - スライドショー中
  - "[アイコン]トラッキング"追尾中
  - ボイスレコード録音・再生中
  - 動画撮影・再生中

【📷】の動作を設定する（REC）

操作手順：【SET】→MENU→設定タブ→REC

パワーオン	【📷】（撮影）を押すと、電源が入ります。
パワーオン／オフ	【📷】（撮影）を押して、電源を入れたり切ったりできます。
切	【📷】（撮影）を押しても、電源は入りません。

- “パワーオン／オフ”に設定しているときは、撮影モードで【📷】（撮影）を押した場合に電源が切れます。
- “パワーオン”“パワーオン／オフ”設定時に電源を入れるときは、後面ランプが緑色に一瞬点灯するまで、【📷】（撮影）を押してください。

画像の消去操作ができないようにする（🗑禁止）

操作手順：【SET】→MENU→設定タブ→🗑禁止

【🗑】（消去）を押しても、画面の消去操作に入らないようにすることができます。
誤操作などにより、誤って画像を消去したくないときは、“入”にしてください。

- フォーマット（86ページ）すると、“🗑禁止”を“入”に設定していても、画像は消去されます。

画面の横縦比とビデオ出力の方式を変更する（ビデオ出力）

操作手順：【SET】→MENU→設定タブ→ビデオ出力

本機では、ビデオ信号をNTSCまたはPAL、テレビ画面のアスペクト比（横縦比）を4:3または16:9のいずれかで出力できます。

NTSC	日本のほか、アメリカなどでも使用されています。
PAL	ヨーロッパなどで使用されています。
4:3	画面比率4:3のテレビ用
16:9	ワイド画面のテレビ用

- お使いのテレビ画面のアスペクト比（4:3または16:9）に合わせて設定してください。このとき、テレビ側のアスペクト比の設定も正しく設定されていないと、画面が正常に表示されない場合があります。
- 本機のビデオ方式とテレビのビデオ方式が合わないと正しく表示されません。
- NTSC、PAL以外の方式のテレビでは、画像は正しく表示されません。
- ビデオ出力には別売のAVケーブル（EMC-7A）が必要となります。

メモリーをフォーマットする（フォーマット）

操作手順：【SET】→MENU→設定タブ→フォーマット

カメラにメモリーカードが入っている場合はメモリーカードを、メモリーカードが入っていない場合は内蔵メモリーをフォーマットできます。

- フォーマットすると、メモリーの内容がすべて消去され、元に戻すことはできません。本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- 内蔵メモリーをフォーマットした場合、次の画像も同時に消去されます。
  - プロテクトされた画像
  - 起動画面に設定した画像
- メモリーカードをフォーマットした場合、次の画像も同時に消去されます。
  - プロテクトされた画像
- フォーマットすると、“🗑禁止”（85ページ）を“入”に設定していても、画像は消去されます。
- フォーマットするときは、電池残量の十分な電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると、正しくフォーマットされず、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- フォーマット中は、絶対に電池カバーを開けないでください。カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。

各種設定を購入直後の設定に戻す（リセット）

操作手順：【SET】→MENU→設定タブ→リセット

購入直後の設定（初期値）については、92ページを参照ください。

下記の項目は、リセットしても初期値に戻りません。

ワールドタイムの詳細設定、日時設定、表示スタイル、Language、ビデオ出力

付録

使用上のご注意

■ データエラーのご注意

本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると内部のデータが破壊される恐れがあります。

– カメラの動作中に電池やメモリーカードを抜いた
– 電源を切ったときに後面ランプが緑色に点滅している状態で電池やメモリーカードを抜いた
– 通信中にUSBケーブルがはずれた
– 充電してもすぐに消耗してしまう電池を使用し続けた
  - 充電してもすぐに消耗してしまう電池を使用し続けると、カメラが故障する場合があります。すみやかに新しい電池に交換してください。

– その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示される場合があります（97ページ）。メッセージに対応した処置をしてください。

■ 使用環境について

- 使用可能温度範囲：0～40℃
- 使用可能湿度範囲：10～85％（結露しないこと）
- 次のような場所には置かないでください。
  – 直射日光の当たる場所、湿気やホコリ、砂の多い場所
  – 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
  – 日中の車内、振動の多い場所

■ 結露について

真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付き（結露）、故障の原因となります。結露を防ぐには、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に十分慣らしてから取り出して、電池カバーを開けたまま数時間放置してください。

■ レンズについて

- レンズ面は強くこすったりしないでください。レンズ面に傷が付いたり、故障の原因となります。
- レンズの特性（歪曲収差）により、撮影した画像の直線が歪む（曲がる）場合がありますが、故障ではありません。

■ カメラのお手入れについて

- レンズ面やフラッシュ面には触れないでください。レンズ面やフラッシュ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、ブロアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- 本機が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。

■ 充電式電池の取り扱いについて（リサイクルのお願い）

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

<最寄りのリサイクル協力店へ>

詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。

- ホームページ　http://www.jbrc.com/

■ 使用済み充電式電池の取り扱い注意事項

- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

■ USB-ACアダプター（AD-C53U）ご使用時のご注意

●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・故障・感電の原因となります。

●電源コードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・事故・感電の原因となります。

●電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・故障・感電の原因となります。

●濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

●タコ足配線をしないでください。火災・故障・感電の原因となります。

●万一、電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店に連絡してください。そのまま使用すると火災・故障・感電の原因となります。

- 充電中、USB-ACアダプターは若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、電源コードをコンセントからはずしてください。
- USB-ACアダプターの上に毛布などがかぶさらないようにしてください。火災の原因となります。

■ その他の注意

使用中、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。

■ 著作権について

カメラで記録した静止画や動画は、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。ただし、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますので、ご注意ください。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず、権利者の許可なく、ネット上のホームページや共有サイトなどに掲載したり、第三者に配布したりすることも著作権法や国際条約で固く禁じられています。たとえば、録画したTV番組やライブコンサートの映像、音楽ビデオなど自分で撮影や録画したものであっても、動画共有サイトなどに掲載したり配付したりすると、他者の権利を侵害する恐れがあります。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

　この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。なお、本文中には、™マーク、®マークを明記していません。

- SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Media、Windows Vista、Windows 7、およびDirectXは、米国およびその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime、およびiPhotoは、Apple Inc.の商標です。
- YouTubeおよびYouTubeロゴは、Google Inc.の商標または登録商標です。
- Eye-FiおよびEye-Fiロゴは、Eye-Fi, Inc.の商標です。
- EXILIM、Photo Transport、およびYouTube Uploader for CASIOは、カシオ計算機（株）の登録商標または商標です。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

本製品に弊社が提供しているソフトウェアを、無断で営業目的で複製（コピー）したり、頒布したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。

YouTube Uploader for CASIOとYouTube撮影機能は、YouTube, LLC社からのライセンスに基づいています。ただし、本製品がYouTubeアップロード機能を備えることが、YouTube, LLC社が本製品を保証または推薦することを意味するわけではありません。

電源について

充電について

■ 充電中にカメラの後面ランプが赤色に点滅したときは

- 周辺温度または電池の温度が高温または低温状態で、充電できないことを示しています。USBケーブルを抜いて充電可能温度範囲になるまで放置し、その後、充電を再開してください。
- 電池の接点部の汚れを調べてください。汚れていたら、乾いた布で拭いてください。
- 別のUSB端子に接続しなおしてください。パソコンとの接続環境によっては、パソコンからの充電ができない場合があります。

上記の処置をしてもエラーが起こる場合は、電池の不良が考えられます。別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

電池に関するご注意

■ 使用上のご注意

- 寒い場所では、電池の特性上、十分に充電されていても、使用時間が短くなります。
- 10℃～35℃の温度範囲で充電してください。範囲外の温度では、充電時間が長くなったり、十分な充電ができないことがあります。
- 電池の外装ラベルを破ったり、はがしたりしないでください。
- 充電直後でも電池の使用時間が大幅に短くなった場合は、電池の性能寿命と思われますので、新しいものをお買い求めください。なお、古い電池は使用せずに充電式電池リサイクル協力店へお持ちください（88ページ）。

■ 保管上のご注意

- 充電された状態で長期間保管すると電池の特性が劣化することがあります。しばらく使わない場合は、使い切った状態で保管してください。
- 使用しないときは必ず電池をカメラから取りはずしてください。取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、電池が消耗し、充電に時間がかかったり、カメラが壊れたりします。
- 乾燥した涼しい場所（20℃以下）で保管してください。
- 過放電を防止するために、電池は半年に1回くらいの割合で一度フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。

海外で使うときは

■ 使用上のご注意

- 付属のUSB-ACアダプター（AD-C53U）はAC100V～240V、50/60Hzの電源に対応していますが、使用する国・地域によって電源コードのプラグ形状等が異なるため、あらかじめ旅行代理店などにお問い合わせください。
- USB-ACアダプターの電源に、電圧変換器等はご使用にならないでください。故障の原因となります。

■ 予備の電池について

- 旅先で電池が切れて撮影ができなくなってしまうことを防ぐため、フルに充電した予備の電池（NP-80）をお持ちになることをおすすめします。
- 電池はお買い求めの販売店またはカシオ・オンラインショッピングサイト（e-カシオ）でご購入ください（e-カシオ：http://www.e-casio.co.jp/）。

メモリーカードについて

使用できるメモリーカード、メモリーカードの入れ方については17ページをご覧ください。

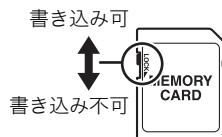
■ メモリーカードについて

書き込み可

書き込み不可

LOCK

MEMORY CARD

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードには、書き込み禁止スイッチがあります。誤って消去する不安があるときは使用してください。ただし、撮影・フォーマット・消去時は解除しないと各操作が実行できません。
- 画像を再生したときに異常が発生した場合などは、フォーマット操作（86ページ）で復帰できますが、外出先などでこの操作ができない場合に備えて複数枚のメモリーカードをお持ちになることをおすすめします。
- メモリーカードは撮影／消去を繰り返すとデータ処理能力が落ちてくるので、定期的にフォーマットすることをおすすめします。
- 静電気、電気的ノイズ等により、記録したデータが消失または破壊することがありますので、大切なデータは別のメディア（CD-R、CD-RW、ハードディスクなど）にバックアップして控えをとることをおすすめします。

■ メモリーカードのご使用上の注意

- メモリーカードの種類によっては、処理速度が遅くなる場合がありますので、できるだけ超高速タイプのメモリーカードをご使用ください。ただし、超高速タイプのメモリーカードであっても、すべての動作を保証することはできません。動画の画質設定によっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、“”と“●REC”が点滅します。
- 当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。詳しくは、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトの「デジタルカメラお客様サポートメニュー」(http://casio.jp/support/dc/)をご覧いただくか、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

■ メモリーカードやカメラ本体を廃棄／譲渡するときのご注意

本機の「フォーマット」や「消去」機能では、メモリーカード内のファイル管理情報だけが変更され、データそのものが変更されないことがあります。メモリーカード内のデータは、お客様の責任において管理してください。たとえば以下のような手法をおすすめします。

- 廃棄の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。
- 譲渡の際は、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。

また、内蔵メモリーのデータは「フォーマット」機能(86ページ)で完全に消去してからカメラ本体を廃棄・譲渡することをおすすめします。

リセット操作でリセットされる内容

撮影モード、再生モードで表示されるメニューで、リセット操作(86ページ)でリセットされる(初期値になる)内容の一覧表です。
ー:この記号の設定項目はリセット操作には影響がありません。

重要

- 撮影モードによっては、使用できないメニューがあります。

■ 撮影モード

“撮影設定”タブ

フォーカス方式	AF
フォーカス枠	[ ]
AFエリア	マルチ
AF補助光	入
顔検出	入
連写	切
手ブレ補正	入
左右キー設定	切
グリッド表示	切

アイコンガイド	入
モードメモリ	フラッシュ:入 フォーカス方式:切 ホワイトバランス:切 ISO感度:切 AFエリア:入 連写:切 セルフタイマー:切 MF位置:切 ズーム位置:切

“画質設定”タブ

画質(静止画)	標準-N
EVシフト	0.0
ホワイトバランス	オート

ISO感度	オート
カラーフィルター	切

“設定”タブ

Eye-Fi通信	入
操作音	起動音:サウンド1 ハーフシャッター: サウンド1 シャッター:サウンド1 操作音:サウンド1 操作音:■■■□□□□ 再生音:■■■□□□□
起動画面	切
ファイルNo.	メモリする
ワールドタイム	ー
タイムスタンプ	切

日時設定	ー
表示スタイル	ー
Language	ー
スリープ	1分
オートパワーオフ	2分
REC	切
禁止	切
ビデオ出力	ー
フォーマット	ー
リセット	ー

■ 再生モード

“再生機能”タブ

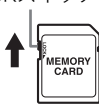
回転表示	ー
プリント設定(DPOF)	ー
プロテクト	ー

リサイズ	ー
トリミング	ー
アフレコ	ー
コピー	ー

“設定”タブ

- 再生モードの“設定”タブの内容は、撮影モードの“設定”タブと同じです。

故障かな？と思ったら

現象と対処方法

現象	考えられる原因と対処
電源について	
電源が入らない。	1) 電池が正しい向きに入っていない（12ページ）。 2) 電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください（13ページ）。それでもすぐに電池が消耗するときは電池の性能寿命です。別売の当社のリチウムイオン充電池（NP-80）をお買い求めください。
電源が勝手に切れた。	1) オートパワーオフが働いた可能性があります（84ページ）。電源を入れ直してください。 2) 電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください（13ページ）。 3) カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。
電源が切れない。ボタンを押しても、カメラが動作しない。	カメラから電池をいったん取り出し、入れ直してください。
撮影について	
シャッターを押しても撮影できない。	1) 再生モードになっている場合は、【 】（撮影）を押して撮影モードにしてください。 2) フラッシュの充電中は、フラッシュの充電が終わるまで待ってください。 3) “メモリがいっぱいです”と表示されている場合は、パソコンに画像を転送後、不要な画像を消去するか、別のメモリーカードをセットしてください。
オートフォーカスなのにピントが合わない。	1) レンズが汚れている場合は、レンズの汚れを取ってください。 2) 被写体がフォーカスフレームの中央にありません。 3) ピントの合いにくい被写体の可能性があります（27ページ）。マニュアルフォーカスに切り替えて手動でピントを合わせてください（48ページ）。 4) 手ブレしている可能性がありますので、手ブレ補正を“入”に設定してください（53ページ）。または、三脚を使用してください。 5) シャッターを半押しせずに撮影したとき、ピントが合わない場合があります。シャッターの半押しを確実に行ってピントを合わせてください。
撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない可能性があります。ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを合わせて撮影してください。
フラッシュが発光しない。	1) フラッシュの発光方法が“ ”（発光禁止）になっている場合は、発光方法を他の方法に切り替えてください（33ページ）。 2) 電池が消耗している場合は、電池を充電してください（13ページ）。 3) ベストショットでフラッシュが“ ”（発光禁止）のシーンを選んでいる場合は、必要に応じてフラッシュの発光方法を切り替えるか（33ページ）、撮影したいシーンを選び直して（44ページ）ください。
液晶モニター上に“ ”（発光禁止）が赤く点灯し、フラッシュが発光しない。	フラッシュが故障している恐れがありますので、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。なお、この状態でフラッシュは発光できませんが、撮影することはできます。

現象	考えられる原因と対処
セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(13ページ)。
液晶モニターに表示される画像のピントがあまい。	1) マニュアルフォーカスでピント合わせがずれています。ピントを正しく合わせてください(49ページ)。 2) 被写体が風景や人物なのに“ ”(マクロ)または“ ”(スーパーマクロ)になっています。風景や人物を撮影する場合は、オートフォーカスにしてください(48ページ)。 3) 接写しているのに、オートフォーカスになっています。接写する場合は“ ”(マクロ)または“ ”(スーパーマクロ)にしてください(48ページ)。
液晶モニターに表示される画面に縦線が入る。	極端に明るい被写体を撮影すると、液晶モニター上の画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象)。これはCCD特有の現象で、故障ではありません。なお、この帯は静止画には記録されませんが、動画にはそのまま記録されますので、ご注意ください。
画像にノイズが入る。	1) 被写体が暗いとカメラの感度が自動的に上がるため、ノイズが発生する場合があります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 2) 暗い場所でフラッシュを“ ”(発光禁止)にして撮影すると、ノイズが発生し、多少ざらついた感じになることがあります。その場合は、フラッシュの発光方法を切り替えるか(33ページ)、ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 3) 静止画撮影で高い値のISO感度に設定したり、ライティング機能を使うと、ノイズが増えることがあります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。
撮影したのに画像が保存されていない。	1) 記録が終了する前に電池切れになった場合、画像は保存されません。電池残量表示が“ ”になったら、速やかに電池を充電してください(15ページ)。 2) 記録が終了する前にメモリーカードを抜いた場合、画像は保存されません。記録が終了する前にメモリーカードを抜かないでください。
風景が明るいのに人物の顔が暗くなってしまった。	人物が光量不足です。フラッシュを“ ”(強制発光)にしてください(日中シンクロ撮影)(33ページ)。または、EVシフトを＋側に調整してください(56ページ)。
夜景がきれいに撮影できない。	撮影モードをプレミアムオートに設定して撮影してください(22、28ページ)。
海岸やスキー場で撮影すると被写体が暗くなる。	海岸や雪面からの強い光の反射に露出が合っているため、露出不足になっています。フラッシュを“ ”(強制発光)にしてください(日中シンクロ撮影)(33ページ)。または、EVシフトを＋側に調整してください(56ページ)。
デジタルズーム(HDズーム含む)が効かない。ズームバーが24.0倍までしか表示されない。	タイムスタンプを使用していると、デジタルズームが使用できません。タイムスタンプの設定を“切”にしてください(83ページ)。
動画撮影中に画像がぼける。	1) 撮影範囲外のためピントが合っていません。撮影範囲内で撮影してください。 2) レンズが汚れている可能性があります。清掃してください(87ページ)。

	現象	考えられる原因と対処
再生について		
	再生した画像の色が撮影時に液晶モニターで見た色と違う。	太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている可能性があります。直接光がレンズに当たらないようにしてください。
	画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のカメラで撮影したメモリーカードを使用した場合は、ファイル管理形式が異なるため再生できません。
	画像編集(リサイズ、トリミング、回転)ができない。	次の画像は編集できません。 • 動画 • 他のカメラで撮影した画像
消去について		
	ファイルを消去することができない。	1) ファイルにプロテクトがかかっている可能性があります。プロテクトを解除してください(65ページ)。 2) "🗑禁止"の設定が"入"になっている可能性があります。設定を"切"にしてください(85ページ)。
その他		
	画面に表示される日時や記録したデータの日付が正しくない。	日時の設定が間違っているので、日時を設定し直してください(83ページ)。
	画面に表示される言葉が外国語になっている。	表示言語の設定が間違っているので、表示言語を設定し直してください(84ページ)。
	パソコンにUSB接続しても画像が取り込めない。	1) USBケーブルが確実に接続されていない可能性があります。コネクタ端子部を確認して、確実に接続してください。 2) カメラの電源が入っていない場合は、電源を入れてください。 3) USBケーブルをUSBハブなどを経由してパソコンと接続すると、正常に認識しない場合があります。USBケーブルはパソコンのUSB端子に直接接続してください。
	カメラの電源を入れると、時計設定画面が表示される。	1) ご購入直後の初期設定をしていないか、電池が消耗状態でカメラを放置しています。各設定を確実に行ってください(15、16ページ)。 2) カメラ内部のメモリー管理エリアが壊れている恐れがあります。この場合は、リセット操作によりカメラの設定内容を初期値に戻してください(86ページ)。その後、各設定を確実に行ってください。再度カメラの電源を入れたときに時計設定画面が表示されなければ、カメラ内部のメモリー管理エリアが修復されました。 再度電源を入れても時計設定画面が表示される場合は、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
	画面に色々なマークや数字などが表示される	画面には撮影に必要な表示や撮影した画像の情報などが表示されます。【▲】(DISP)を押すごとに、画面に表示される情報表示の有無が選べます(10ページ)。
	購入後、時計を設定したあと、すぐに電池を抜いたら、設定した時刻がリセットされた。	電池を入れ、時計を設定し直してください(16ページ)。その後、24時間以上は電池を入れたままにしておいてください。 • 24時間以上、電池を入れているのに、電池の抜き差しで時刻がリセットされる場合は、カメラの設定保持機能が壊れている恐れがあります。この場合は、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

現象	考えられる原因と対処
電源を入れた直後、ボタン操作ができない。	メモリーカードの容量が大きい場合、電源を入れてからボタン操作ができるまでの時間が長くなります。

画面に表示されるメッセージ

圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可能状態のときに表示されます。撮影し直してください。
カードが異常です	メモリーカードに異常が発生したときに表示されます。電源を切って、メモリーカードを差し直してください。再度電源を入れても同じメッセージが表示されるときは、フォーマットしてください(86ページ)。 重要 • フォーマットを行うとメモリーカード内のすべての内容(ファイル)が消えてしまいます。フォーマットを行う前にパソコン等を利用して、メモリーカード内の正常なファイルを保存してください。
カードがフォーマットされていません	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードをフォーマットしてください(86ページ)。
カードがロックされています	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードに付いているLOCKスイッチがロックされている状態です。この状態では、記録、消去などファイルを操作することができません。 LOCKスイッチ LOCK MEMORY CARD
画像転送中です 中断して電源を切りますか?	Eye-Fiカードにより画像データを転送中に、電源を切ろうとしたときに表示されます(78ページ)。
この機能は使用できません	機能の組み合わせなどにより使用できない機能を使用した場合、操作の途中で表示されます。
このファイルは再生できません	ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。
電池容量が無くなりました	電池がなくなったときに表示されます。
電池容量が無くなりました ファイルが保存されませんでした	電池がなくなったため、撮影した画像ファイルが保存されませんでした。
ファイルがありません	まだ何も記録していない状態、または記録内容をすべて消去して本機にファイルが一つもない状態です。

フォルダが作成できません	999番のフォルダの中に9999番のファイルが登録されている状態で、撮影しようとしたときに表示されます。撮影を続けるには、不要なファイルを消去する必要があります(25ページ)。
フラッシュを開けてください	フラッシュが発光する状態で、フラッシュが開いていません。フラッシュスイッチをスライドさせて開いてください。
メモリがいっぱいです	撮影可能枚数を使い切った場合、または編集後のファイルを保存できるメモリーの空きがない場合に表示されます。不要なファイルを消去してください(25ページ)。
もう一度、電源を入れ直してください	レンズに障害物が当たると、このメッセージが表示され、電源が切れます。障害物がないことを確認して、再度電源を入れてください。
レンズエラー	レンズが予期せぬ動作をしたとき、このメッセージが表示され、電源が切れます。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
ALERT	カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。
SYSTEM ERROR	カメラのシステムが壊れていますので、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

撮影可能枚数/撮影可能時間/ボイスレコード記録時間

静止画

画像サイズ (pixels)	撮影画質	ファイルサイズ	内蔵メモリーでの撮影枚数※1	SDメモリーカードでの撮影枚数※2
16M (4608×3456)	高精細-F	5.57MB	7	2791
	標　準-N	3.71MB	11	4191
3:2 (4608×3072)	高精細-F	4.92MB	8	3160
	標　準-N	3.28MB	12	4740
16:9 (4608×2592)	高精細-F	4.10MB	9	3792
	標　準-N	2.75MB	14	5654
10M (3648×2736)	高精細-F	3.38MB	12	4600
	標　準-N	2.27MB	18	6849
5M (2560×1920)	高精細-F	1.72MB	23	9040
	標　準-N	1.22MB	33	12744
3M (2048×1536)	高精細-F	1.25MB	32	12439
	標　準-N	820KB	49	18962
VGA (640×480)	高精細-F	290KB	141	53616
	標　準-N	240KB	170	64786

動画

画像サイズ/pixels(音声)	転送レート(フレームレート)	1ファイル最大サイズ	内蔵メモリーでの記録時間※1	SDメモリーカードでの最大記録可能時間※2	1分録画時のファイルサイズ	一回当たりの連続撮影可能時間※3
HD 1280×720 (モノラル)	30.2メガビット/秒(30フレーム/秒)	4GBまで	9秒※4	1時間5分23秒	226.3MB	17分9秒
STD 640×480 (モノラル)	10.6メガビット/秒(30フレーム/秒)		28秒	3時間6分34秒	79.0MB	50分56秒

ボイスレコード

ファイル形式	ファイルサイズ	1ファイル最大サイズ	内蔵メモリーでの記録時間※1	SDメモリーカードでの最大記録可能時間※2	一回当たりの連続録音可能時間※3
WAV IMA-ADPCM	約5.5KB/秒	1回の録音で最大4GBまで	約2時間6分	約796時間53分	約2時間30分

※1 内蔵メモリーをフォーマット後の容量(約41.0MB)の場合です。
※2 16GB SDHCメモリーカード(SanDisk Corporation製)の場合です。使用するメモリーカードによって撮影枚数・記録時間は異なる場合があります。
※3 1ファイル最大サイズよりも容量の小さいSDメモリーカードを使用する場合、記載の時間より短くなります。
※4 内蔵メモリーでは、HD動画の転送レートを十分に満足できません。超高速タイプのメモリーカードをご使用ください。

- 撮影枚数/撮影時間/記録時間は目安(おおよその数値)であり、画像の内容によって少なくなることがあります。
- ファイルサイズ/転送レートは目安(おおよその数値)であり、撮影対象によって変化することがあります。
- 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおむねその容量に比例した枚数が撮影できます。
- “YouTube”のシーンの撮影では、1回の撮影で保存できるファイルのサイズが最大2048MB、または撮影時間が最大15分となります。

主な仕様／別売品

画像ファイル形式	静止画：JPEG（Exif Ver. 2.3／DCF2.0準拠／DPOF対応） 動画：AVI形式、Motion JPEG準拠、IMA-ADPCM音声（モノラル） 音声（ボイスレコード）：WAV形式（モノラル）
記録媒体	内蔵フラッシュメモリー（画像記録エリア：約41.0MB※） SD／SDHC／SDXC ※ 内蔵メモリーをフォーマット後の容量
記録画素数	静止画：16M（4608×3456）／3:2（4608×3072）／16:9（4608×2592）／10M（3648×2736）／5M（2560×1920）／3M（2048×1536）／VGA（640×480） 動画：HD（1280×720）／STD（640×480）
有効画素数	1610万画素
撮像素子	サイズ：1/2.3型正方画素CCD 総画素数：1644万画素
レンズ／焦点距離	F3.0（W）－6.9（T）/f＝4.5〜108mm （35mmフィルム換算で25〜600mm相当）
ズーム	光学ズーム24.0倍／デジタルズーム4倍（光学ズーム併用96倍） HDズーム／デジタルズーム併用時最大382.6倍（VGAサイズ）
フォーカス	コントラスト検出方式オートフォーカス、AF補助光付き • フォーカス方式：オートフォーカス／マクロ／スーパーマクロ／マニュアルフォーカス選択可能 • AFエリア：スポット／マルチ／トラッキング選択可能
撮影距離範囲（静止画）（レンズ先端から）	オートフォーカス：約10cm〜∞（W端） マクロ：約2cm〜約50cm（W端から、2段ズーム時） スーパーマクロ：約2cm〜約50cm マニュアルフォーカス：約10cm〜∞（W端） • 光学ズームにより撮影距離は変化します。

測光方式	撮像素子によるマルチパターン測光（一部BSシーンで中央重点測光）
露出制御	プログラムAE
露出補正	－2.0EV〜＋2.0EV（1/3EVステップ）
シャッター方式	CCD電子シャッター／メカシャッター併用
シャッタースピード	静止画（オート）：1/2秒〜1/2000秒 静止画（プレミアムオート）：4秒〜1/2000秒 • カメラの設定により異なる場合があります。
絞り	F3.0（W）〜F8.7（W）（NDフィルター併用） • 光学ズームにより、絞り値は変化します。
ホワイトバランス	オート／太陽光／曇天／日陰／N昼白色／D昼光色／電球／マニュアルホワイトバランス
感度（標準出力感度）	静止画：オート／ISO64／ISO100／ISO200／ISO400／ISO800／ISO1600相当 動画：オート
フラッシュモード	フラッシュオート／発光禁止／強制発光／赤目軽減機能
フラッシュ撮影範囲（ISO感度オート時）	W端：約0.4m〜約3.2m T端：約0.4m〜約1.7m • 光学ズームにより範囲は変化します。
フラッシュ充電時間	約5秒
画像モニター	3.0型TFTカラー液晶 460,800（960×480）ドット
外部接続端子	USB端子（Hi-Speed USB準拠、USB充電対応）／AV出力端子（NTSC/PAL）
マイク	モノラル
スピーカー	モノラル
電源	リチウムイオン充電池（NP-80）×1個

電池寿命

下記の電池寿命は温度23℃で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

静止画撮影枚数※1	約145枚
動画実撮影時間(HD動画)※1	約35分
動画連続撮影時間(HD動画)※1	約1時間5分
ボイスレコード録音時間※2	約2時間30分
連続再生時間※3	約2時間25分

- 使用電池:NP-80(定格容量:700mAh)
- 記録メディア:16GB SDHCメモリーカード(SanDisk Corporation製)

※1 CIPA(カメラ映像機器工業会)規格に準ずる
※2 連続で録音したときの時間です。
※3 温度(23℃)、約10秒に1枚ページ送り

- 前記は、新品の電池のフル充電状態での数値です。繰り返し使用すると、電池寿命は徐々に短くなります。
- フラッシュ、ズーム、オートフォーカスの使用頻度や電源が入った状態の時間により、撮影時間または枚数は大幅に異なる場合があります。

消費電力	DC3.7V 約4.0W
外形寸法	幅106.9mm×高さ68.6mm×奥行き39mm
質量	約238g(電池およびメモリーカード※含む) 約221g(電池およびメモリーカード除く) ※ 16GB SDHCメモリーカード(SanDisk Corporation製)の場合

■ リチウムイオン充電池(NP-80)

定格電圧	3.7V
定格容量	700mAh
使用周囲温度	0～40℃
外形寸法	幅31.4mm×高さ39.5mm×奥行き5.9mm
質量	約15g

■ USB-ACアダプター(AD-C53U)

入力電源	AC100-240V 50/60Hz 100mA
出力電源	DC5.0V 650mA
使用周囲温度	5～35℃
サイズ	幅53mm×高さ21mm×奥行き45mm(突起部含まず)
質量	約37g

■ 別売品

- 充電器 BC-80L
- リチウムイオン充電池 NP-80
- USB-ACアダプター AD-C53U
- USBケーブル EMC-5U
- AVケーブル EMC-7A
- ソフトケース ESC-330
- ネックストラップ ENS-2

別売品は、お買い求めの販売店、またはカシオ・オンラインショッピングサイト(e-カシオ)にご用命ください。
e-カシオ: http://www.e-casio.co.jp/

カシオデジタルカメラに関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトでもご覧になることができます。
http://casio.jp/dc/

CEマーキングは、ヨーロッパ地域の基準適合マークです。

Manufacturer:
CASIO COMPUTER CO., LTD.
6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan

Responsible within the European Union:
CASIO EUROPE GmbH
Casio-Platz 1, 22848 Norderstedt, Germany

索引

英数字

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ